

■ 建築工学科（昼間部） 教科目〔科目担当者〕一覧

設計実務経験者授業	1004.5 時間	1282.0 時間
施工実務経験者授業	277.5 時間	
授業総時間		1851 時間

科 目	学年	必選別	担 当 者	設計実務 経験者	施工実務 経験者	時間数
建築製図Ⅰ	1	必修	石川 義雄	○		204
建築製図Ⅱ	2	必修	木下 太	○		162
建築CADⅠ	1	必修	山田 梨佳	○		68
建築CADⅡ	2	必修	河崎 真樹子	○		54
建築計画	1	必修	石川 義雄	○		68
計画実践	2	必修	佐藤 龍彦	○		40.5
建築史	1	必修	岩田 敏也		○	34
環境工学	1	必修	澤田 多喜二			68
建築設備	2	必修	西岡 英明	○		54
構造力学Ⅰ	1	必修	森 登	○		68
構造力学Ⅱ	2	必修	弓場 明彦			54
建築一般構造	1	必修	内藤 義幸	○		68
建築材料	1	必修	渡邊 文雄	○		68
建築施工	1	必修	石橋 敦士		○	68
施工図	2	必修	岩田 敏也		○	20
建築積算	2	必修	長島 建雄		○	34
建築法規Ⅰ	1	必修	川田 英男			68
建築法規Ⅱ	2	必修	松井 一将			54
施工管理	2	必修	伊丹 勤		○	81
建築ITⅠ	1	必修	臼井 あゆみ			34
建築ITⅡ	2	必修	臼井 あゆみ			27
建築総合演習（基礎）	1	必修	弓場 明彦			102
建築総合演習（実践）	2	必修	豊田 直美			162
卒業制作・演習	2	必修	内藤 義幸	○		150
建築測量実験	2	必修	岩雲 康弘		○	40.5

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築製図Ⅱ		
② 対象学科	工業専門課程 建築工学科（昼間部）	③ 履修学年	2
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	162
⑦ 担当教員（代表）	木下 太	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. クライアントの希望や設計条件を正確に把握できる能力を身につける。 2. 設計資料の収集の仕方や分析、また、設計時に必要な計画上の基礎知識を増やす。 3. 提案の趣旨を効果的にプレゼンテーションできる能力を磨く。 			
⑪ 授業の概要			
<p>木造の設計では住宅の平面・立面をはじめ、伏図・軸組等の構造図までを描く。木造以外の設計では鉄筋コンクリート造の共同住宅（標準規模：住戸面積80㎡、延べ面積2400㎡、4階建て程度）・ホテル・図書館・学校・公民館と鉄骨造の商業施設の中から一つを選択し設計する。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 12 時間目	木造2階建専用住宅の設計図面（エスキース等）の作成		
13 ～ 18 時間目	木造2階建専用住宅の設計図面（配置図・求積図・面積表・1階平面図・2階平面図）の作成		
19 ～ 24 時間目	木造2階建専用住宅の設計図面（立面図・断面図）の作成		
25 ～ 30 時間目	木造2階建専用住宅の設計図面（矩計図）の作成		
31 ～ 36 時間目	木造2階建専用住宅の設計図面（1階平面詳細図・2階平面詳細図）の作成		
37 ～ 42 時間目	木造2階建専用住宅の設計図面（展開図）		
43 ～ 48 時間目	木造2階建専用住宅の設計図面（基礎伏図・1階床伏図）の作成		
49 ～ 54 時間目	木造2階建専用住宅の設計図面（2階床伏図兼1階小屋伏図・2階小屋伏図）の作成		
55 ～ 60 時間目	木造2階建専用住宅の設計図面（各通り軸組図・仕上げ表・表紙）の作成		
61 ～ 66 時間目	木造2階建専用住宅の壁量計算書の作成		
67 ～ 72 時間目	木造2階建専用住宅の確認申請書の作成		
73 ～ 84 時間目	非木造建築物の設計図面（エスキース等）の作成		
85 ～ 90 時間目	非木造建築物の設計図面（配置図・求積表・面積表・1階平面図）の作成		
91 ～ 96 時間目	非木造建築物の設計図面（基準階平面図等）の作成		
97 ～ 102 時間目	非木造建築物の設計図面（屋階平面図等）の作成		
103 ～ 108 時間目	非木造建築物の設計図面（立面図等）の作成		
109 ～ 114 時間目	非木造建築物の設計図面（断面図等）の作成		
115 ～ 120 時間目	非木造建築物の設計図面（1階平面詳細図等）の作成		
121 ～ 126 時間目	非木造建築物の設計図面（基準階平面詳細図等）の作成		
127 ～ 138 時間目	非木造建築物の設計図面（断面詳細図等）の作成		
139 ～ 150 時間目	非木造建築物の設計図面（大梁、小梁、柱の断面リスト）の作成		
151 ～ 162 時間目	非木造建築物の設計図面（各種伏図・各種配筋図）の作成		
～ 時間目			
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	超入門 建築製図	出版社：市ヶ谷出版社
	教材	配布資料	著者：永井孝保 他
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 010102

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築CADI		
② 対象学科	工業専門課程 建築工学科（昼間部）	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	68
⑦ 担当教員(代表)	山田 梨佳	⑥ 授業形態	演習
⑧ 実務経験	設計実務経験者		
⑨ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>JW_CADの基本操作を習得し、基本的な建築設計図を作図する能力を習得する。 基本操作習得後は、効率の良い作図の方法を学び、作図スピードの向上を図る。 図面のトレース能力を高めると共に、データの受け渡しに関する知識も習得する。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>基本的操作方法の練習。 木造住宅等の各種図面を作成。 CADソフトにある多くのコマンドを使いこなして作図効率を高める練習をする。 RC造集合住宅図面の作成。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 6 時間目	CADの基本的操作		
7 ～ 14 時間目	木造2階建専用住宅の設計図面1（平面図等）の作成		
15 ～ 26 時間目	木造2階建専用住宅の設計図面1（立面図・断面図等）の作成		
27 ～ 32 時間目	木造2階建専用住宅の設計図面1（建具表・建具キープラン・展開図）の作成		
33 ～ 38 時間目	木造2階建専用住宅の設計図面1（各通り軸組図・仕上げ表・表紙）の作成		
39 ～ 44 時間目	木造2階建専用住宅の設計図面2（平面図・断面図）の作成		
45 ～ 50 時間目	木造2階建専用住宅の設計図面2（立面図・かなばかり図）の作成		
51 ～ 56 時間目	RC造階段図面の作図練習		
57 ～ 60 時間目	RC造建具詳細図面の作図練習		
61 ～ 63 時間目	RC造集合住宅の設計図面（基準階平面図）の作成		
64 ～ 68 時間目	RC造集合住宅の設計図面（立面図）の作成		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	出版社：	
	教材	著者：	
		配布資料	
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 010103

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築計画		
② 対象学科	工業専門課程 建築工学科（昼間部）	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	68
⑦ 担当教員（代表）	石川 義雄	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
各種建築物に関する知見を整理し、設計段階（基本設計）における空間計画（特に平面計画）の基礎知識を習得する。さらに、これらの知識を活用し設計製図に取り組める能力を養っていく。			
⑪ 授業の概要			
空間計画としての必須条件と、人間の生活・行動に関わる基本的な考え方を踏まえ、各種ビルディングタイプ別にその歴史・背景から、全体計画及び細部計画にいたるまでの知識を習得する。			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 2 時間目	計画と設計、居住施設の計画（住様式と住宅の変化）		
3 ～ 5 時間目	居住施設の計画（一戸建て住宅）		
6 ～ 8 時間目	居住施設の計画（集合住宅）		
9 ～ 10 時間目	居住住宅の計画（細部計画）		
11 ～ 14 時間目	学校教育施設の計画（幼稚園・保育所）		
15 ～ 18 時間目	学校教育施設の計画（小学校・中学校）		
19 ～ 20 時間目	社会教育施設の計画（生活圏とコミュニティ施設）		
21 ～ 24 時間目	社会教育施設の計画（図書館）		
25 ～ 28 時間目	社会教育施設の計画（美術館）		
29 ～ 30 時間目	社会教育施設の計画（コミュニティセンター・公民館）		
31 ～ 32 時間目	医療施設・福祉施設の計画（高齢化社会と建築計画）		
33 ～ 35 時間目	医療施設・福祉施設の計画（病院）		
36 ～ 38 時間目	医療施設・福祉施設の計画（高齢者施設）		
39 ～ 40 時間目	商業施設の計画（規模計画と経済効果）		
41 ～ 44 時間目	商業施設の計画（事務所ビル）		
45 ～ 48 時間目	商業施設の計画（劇場・音楽ホール）		
49 ～ 52 時間目	商業施設の計画（百貨店・スーパーマーケット・駐車場）		
53 ～ 60 時間目	商業施設の計画（宿泊施設・ホテル）		
61 ～ 68 時間目	外部空間の計画、まとめ		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	初学者の建築講座 建築計画	出版社：市ヶ谷出版社
	教材	配布資料	著者：佐藤考一・五十嵐太郎
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 010201

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築史		
② 対象学科	工業専門課程 建築工学科（昼間部）	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	34
⑦ 担当教員(代表)	岩田 敏也	⑧ 実務経験	施工実務経験者
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>単なる技術の歴史だけではなく、気候風土から政治・社会・宗教にいたるまで建築独自の性格について、日本建築・西洋建築について学び、建築物の特徴やデザイン、建築美について学ぶ。これにより建築技術者としての必要な常識を養い、その基盤に立ってこれからの建築のあり方についての進路を切り開く。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>各時代の代表的な建築物をいくつか具体的に取り上げ、クローズアップしていく。その時代の建築物の特徴・材料・技術（工法）史を捉えることにより、次の時代への考察も併行して行う。建築の変遷の流れと特徴を正しく理解することにより、現代建築学が向かうべき姿勢を学習する。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 2 時間目	日本古代の建築（縄文～古墳時代の住居、集落、奈良・平安時代の仏寺建築、神社建築、寝殿造）		
3 ～ 6 時間目	日本中世の建築（和様、大仏様、禅宗様の特徴、新しい建築様式）		
7 ～ 9 時間目	日本近世の建築1（城郭建築、書院造、数寄屋風建築、寺院建築）		
10 ～ 12 時間目	日本近世の建築2（霊廟建築、農家の発達）		
13 ～ 15 時間目	西洋古代の建築（オリエント、エジプト、ギリシア、ローマ建築の特徴と技術史）		
16 ～ 18 時間目	西洋中世の建築（初期キリスト教、ビザンチン、ロマネスク、ゴシック建築の特徴と技術史）		
19 ～ 22 時間目	西洋近世の建築（ルネサンス、バロック、新古典主義建築の特徴と技術史）		
23 ～ 26 時間目	近代建築史「西洋」（産業革命、造形と芸術、様式の確率、国際建築の発展）		
27 ～ 30 時間目	近代建築史「日本」（洋風建築、外人技士の活動と日本建築家の育成）		
31 ～ 33 時間目	近代建築史「戦後」（ポストモダン、耐震建築構造の発展、都市、建築家のあり方とそのニーズ）		
34 ～ 34 時間目	総まとめ（最新の建築状況について、及び考察）		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	コンパクト版 建築史（日本・西洋）	出版社：彰国社
	教材	配布資料	著者：「建築史」編集委員会
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 010203

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	環境工学		
② 対象学科	工業専門課程 建築工学科（昼間部）	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	68
⑦ 担当教員(代表)	澤田 多喜二	⑧ 実務経験	
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>健康で快適な室内環境を実現するための知識として、建築に求められる環境条件を物理量や感覚評価量を体系的にとらえて学び、それらを建築の設計・計画に応用し、利用できる能力の習得を目標とする。また、地球温暖化対策や資源の有効活用、廃棄物の再利用など環境に配慮した建築のあり方にも指針となるものとする。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>住環境の科学的基礎の学習。室内気候全般、空気環境、熱環境・光環境・音環境について人間との関わりを軸に学ぶ。また、人間の温熱感覚を表す指標やその測定方法、自然環境と建築物の基本的関係についても注目していく。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 5 時間目	太陽位置と日照		
6 ～ 10 時間目	日影・日射		
11 ～ 15 時間目	測光量と採光		
16 ～ 19 時間目	人工照明		
20 ～ 24 時間目	色彩の表し方と色彩計画		
25 ～ 29 時間目	空気汚染と必要換気量		
30 ～ 34 時間目	自然換気と機械換気		
35 ～ 38 時間目	伝熱の基本		
39 ～ 42 時間目	建物全体の熱特性		
43 ～ 47 時間目	湿り空気と空気線図		
48 ～ 52 時間目	結露		
53 ～ 57 時間目	温熱感覚指標		
58 ～ 62 時間目	気象と都市環境		
63 ～ 64 時間目	音の性質		
65 ～ 68 時間目	音響計画		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	初学者の建築講座 建築環境工学	出版社：市ヶ谷出版社
	教材		著者：倉渕 隆
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 010301

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築設備		
② 対象学科	工業専門課程 建築工学科（昼間部）	③ 履修学年	2
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	54
⑦ 担当教員（代表）	西岡 英明	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>建築設備の概要を理解させる。建築と設備の関連性について習得させ、建築技術者として、建築設備の知識を育成する。建築設備の用語・方式を理解させる。建築設備全般的な考え方を理解させる。建築技術者として、建築設備の知識を習得する。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>人間生活をより快適でより安全とするための具体的な各種設備（給水・排水・ガス設備・電気設備・空調設備・電気設備等）について、用語から各種方式までを理解し、建築設備への全体的な考え方と適切な方式の選択方法などを学習する。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 2 時間目	建築設備の分類・概論		
3 ～ 4 時間目	給排水衛生設備の概要（役割・構成等）		
5 ～ 10 時間目	給水設備（方式の種類と特徴・必要圧力・タンク設置規定・管材と施工方法等）		
11 ～ 14 時間目	給湯設備（方式の種類と特徴・給湯温度・管材と施工方法等）		
15 ～ 20 時間目	排水設備・通気設備（方式の種類と特徴・排水トラップ・管材と施工方法等）		
21 ～ 24 時間目	屋外排水設備（排水枘の種類・方式・施工法等）		
25 ～ 28 時間目	排水処理設備（排水処理方法・浄化槽の性能）		
29 ～ 30 時間目	空気調和設備の概要（役割・構成等）		
31 ～ 38 時間目	空気調和設備（室内環境基準・種類・特徴・空調負荷・空調機器等）		
39 ～ 42 時間目	換気設備（方式の種類と特徴・必要換気量の算出等）		
43 ～ 44 時間目	電気設備の概要（役割・構成等）		
45 ～ 46 時間目	受変電・幹線・動力設備		
47 ～ 48 時間目	照明・コンセント設備		
49 ～ 50 時間目	消火設備（方式の種類と特徴等）		
51 ～ 52 時間目	防災設備（自動火災報知設備）		
53 ～ 54 時間目	ガス設備（方式・種類・機器性能等）		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	初学者の建築講座 建築設備	出版社：市ヶ谷出版社
	教材		著者：大塚雅之
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 010401

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築一般構造		
② 対象学科	工業専門課程 建築工学科（昼間部）	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	68
⑦ 担当教員（代表）	内藤 義幸	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
建築物の概要と構造の種類、構造方式の考え方について理解する。建築設計者・施工者としての必要な構造に関する技術・知識を養う。			
⑪ 授業の概要			
各種躯体（木造・鉄筋コンクリート造・鉄骨造・組積造・プレストレストコンクリート造等）の基本的な構法や、各部構法（基礎・屋根・壁・開口部・床・階段・天井・造作と納まり等）を学ぶ。そして、1つの建築物が建っていくまでの流れを理解したり、現存する建築物の構法についても理解を深める。			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 2 時間目	建物にはたらく力（荷重、外力）		
3 ～ 4 時間目	木構造（木材、木構造の特徴）		
5 ～ 8 時間目	木構造（在来工法の基礎、床下換気口）		
9 ～ 16 時間目	木構造（軸組、小屋組、床組）		
17 ～ 24 時間目	木構造（筋交い、壁、壁量計算）		
25 ～ 28 時間目	木構造（階段、継手・仕口、金物）		
29 ～ 30 時間目	木構造（柱組み壁工法）		
31 ～ 32 時間目	鉄筋コンクリート造（コンクリートと鉄筋）		
33 ～ 34 時間目	鉄筋コンクリート造（特徴、原理、構造形式）		
35 ～ 36 時間目	鉄筋コンクリート造（配筋計画）		
37 ～ 42 時間目	鉄筋コンクリート造（各部の構造）		
43 ～ 43 時間目	鉄筋コンクリート造（階段）		
44 ～ 45 時間目	鉄筋コンクリート造（壁式鉄筋コンクリート構造）		
46 ～ 47 時間目	鉄骨造（鋼材の特徴）		
48 ～ 49 時間目	鉄骨造（構造形式）		
50 ～ 53 時間目	鉄骨造（接合）		
54 ～ 55 時間目	鉄骨造（部材の設計）		
56 ～ 60 時間目	鉄骨造（各部の構造）		
61 ～ 62 時間目	鉄骨造（床板、階段、耐火被覆）		
63 ～ 64 時間目	鉄骨鉄筋コンクリート造		
65 ～ 66 時間目	補強コンクリートブロック造		
67 ～ 68 時間目	プレストレストコンクリート造		
～ 時間目			
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	図説 やさしい建築一般構造	出版社：学芸出版社
	教材		著者：今村仁美・田中美都
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 010601

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築施工		
② 対象学科	工業専門課程 建築工学科（昼間部）	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	68
⑦ 担当教員(代表)	石橋 敦士	⑥ 授業形態	講義
⑧ 実務経験	施工実務経験者		
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
建築生産をはじめとし、躯体工事、仕上げ工事等の各種工事から1つの現場の流れについて理解し、建築施工者としての必要な施工に関する技術・知識を養う。			
⑪ 授業の概要			
鉄筋コンクリート・鉄骨・木・土工事等の躯体工事の基本的な施工方法や左官・防水・内装等の仕上げ工事の施工方法の知識を学ぶ。そのほか工事の請負契約や請負制度の概略を学ぶ。			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 2 時間目	建築生産（設計と施工）		
3 ～ 6 時間目	施工計画（品質管理・材料管理・工程管理・安全管理・工程表の理解）		
7 ～ 10 時間目	仮設工事・準備工事（共通仮設工事・直接仮設工事・施工機械）		
11 ～ 16 時間目	土工事・地業・基礎工事		
17 ～ 24 時間目	躯体工事（鉄筋コンクリート工事）		
25 ～ 30 時間目	躯体工事（鉄骨造）		
31 ～ 38 時間目	躯体工事（木工事）		
39 ～ 42 時間目	仕上工事（屋根工事）		
43 ～ 46 時間目	仕上工事（防水工事）		
47 ～ 50 時間目	仕上工事（左官工事）		
51 ～ 54 時間目	仕上工事（タイル工事・石工事）		
55 ～ 58 時間目	仕上工事（建具工事・ガラス工事）		
59 ～ 63 時間目	仕上工事（内装工事）		
64 ～ 65 時間目	仕上工事（塗装工事）		
66 ～ 67 時間目	仕上工事（断熱工事）		
68 ～ 68 時間目	建物の引渡し		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	建築施工テキスト	出版社：井上書院
	教材		著者：兼歳昌直
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 010801

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築法規 I		
② 対象学科	工業専門課程 建築工学科（昼間部）	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	68
⑦ 担当教員(代表)	川田 英男	⑧ 実務経験	
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>わが国における建築活動は、すべて法律を規範として営まれており、建築基準法は、構造・防火・避難・衛生等に関する技術的基準及び集団としての秩序を維持するための用途・密度・形態等に関する基準を規定するとともに、これらの内容を担保するための制度・手続き等についても規定している。この授業は建築基準法を中心に学ぶことにより建築関連業務に従事する者に必要な法律知識の習得と社会の変化に対応できる人材の養成を目標とする。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>建築基準法を理解する上で重要な用語の定義について図解等を交えてわかりやすく解説する。また、建築基準法及び建築基準法施行令を基本として、建築物自体の主要な技術基準、都市計画区域等における主要な建築制限、制度規定について、法の基因関係から逐条の解説を実際例と併せて解説すると共に法文内容の理解を深めるために演習を行う。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 4 時間目	建築法規の概要・建築基準法の概要、用語の定義		
5 ～ 11 時間目	建築に関する用語の定義		
12 ～ 16 時間目	面積、高さ等の算定		
17 ～ 21 時間目	建築基準法に関わる手続き		
22 ～ 26 時間目	居室の採光		
27 ～ 31 時間目	居室の換気、アスベスト規制、シックハウス		
32 ～ 36 時間目	居室の天井高・床高・階段の寸法等		
37 ～ 43 時間目	道路関係		
44 ～ 50 時間目	用途地域		
51 ～ 57 時間目	容積率		
58 ～ 64 時間目	建ぺい率		
65 ～ 68 時間目	高さ制限・日影規制		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	建築関係法令集 法令編	出版社：総合資格 著者：総合資格学院
	教材		
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 010901

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	施工管理		
② 対象学科	工業専門課程 建築工学科（昼間部）	③ 履修学年	2
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	81
⑦ 担当教員(代表)	伊丹 勤	⑥ 授業形態	講義
⑧ 実務経験	施工実務経験者		
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>施工管理上必要な建築学の知識と、建築実務上重要な施工計画・工程管理・品質管理・安全管理の諸事項を習得させる。実務に就いた際に現場施工監督者（管理者）としての必要な知識を備える。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>現場施工の工事完了までの諸事項を、安全管理・工程管理・品質管理面について検討し、実務設計図面を使用してスムーズに工事が進行するように具体的な施工計画書を作成する。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 3 時間目	施工計画		
4 ～ 6 時間目	工程管理		
7 ～ 9 時間目	品質管理		
10 ～ 15 時間目	安全管理		
16 ～ 21 時間目	建設業法		
22 ～ 27 時間目	労働基準法		
28 ～ 33 時間目	労働安全衛生法		
34 ～ 39 時間目	その他法規		
40 ～ 45 時間目	防水工事・屋根工事		
46 ～ 48 時間目	左官工事		
49 ～ 51 時間目	張り石工事・タイル工事		
52 ～ 57 時間目	金属工事		
58 ～ 63 時間目	木工事		
64 ～ 69 時間目	ガラス工事・建具工事		
70 ～ 72 時間目	塗装工事・吹付け工事		
73 ～ 75 時間目	内装工事・その他工事		
76 ～ 81 時間目	総合演習		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	建築施工テキスト	出版社：井上書院
	教材	配布資料	著者：兼歳昌直
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 011003

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築 I T II		
② 対象学科	工業専門課程 建築工学科（昼間部）	③ 履修学年	2
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	27
⑦ 担当教員(代表)	臼井 あゆみ	⑧ 実務経験	
⑨ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
「建築 I T I」で習得した知識・技術に加え、表計算等の知識や、画像処理等のソフトを利用し、建築技術者として業務に必要なパソコン操作や書類作成をより高度に行うことができる能力を養う。			
⑪ 授業の概要			
電子データの基本的考え方を学び、標準化・共有化の実践的演習を行う。また、ワープロ・表計算ソフトの活用により見積書、確認申請等の各種建築関係書類の作成技術を体得する。			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 2 時間目	Excel表作成の基礎 書式設定・書式コピー		
3 ～ 4 時間目	Excel数式の設定		
5 ～ 8 時間目	Excel表作成の基礎 SUM関数、AVERAGE関数、		
9 ～ 12 時間目	Excel関数 SUM、AVERAGE		
13 ～ 15 時間目	Excel関数 RANK. EQ		
16 ～ 17 時間目	Excel各種グラフ作成・編集		
18 ～ 19 時間目	Excel関数 IF		
20 ～ 21 時間目	Excel関数 AND、OR		
22 ～ 23 時間目	Excel関数 VLOOKUP、HLOOKUP		
24 ～ 25 時間目	Excel データベース操作		
26 ～ 27 時間目	Excel テーブル機能の活用		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	30時間でマスター Excel2013	出版社：実教出版
	教材		著者：実教出版編修部
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 011005

授 業 計 画 (シラバス)

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築総合演習（実践）		
② 対象学科	工業専門課程 建築工学科（昼間部）	③ 履修学年	2
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	162
⑦ 担当教員(代表)	豊田 直美	⑧ 実務経験	
⑨ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
1年次習得した各科目内容を実務的視点から総合的にとらえ、実習作業を通して建築全般の理解を深める。さらに選択した分野に関して自ら調査研究・作品制作する機会を得ることで、専攻分野に特化した実務能力を高める			
⑪ 授業の概要			
<p>A：建築設計（店舗設計除く）、店舗設計、建築CGパース、建築パース、建築模型等の中から選択し、作品を制作する。</p> <p>B：建築計画、構造、施工、リフォーム等の中から各自で課題を掲げ、調査・研究をしその成果をまとめる。</p> <p>C：建設業全体を把握し、工事管理の手法・躯体工事の方法・手順を現場実習を通じ、その管理手法を習得する。また、安全・工程・品質のマネージメント業務の基本的な手段、実行予算計画を立案し工事現場の運営方法を習得する。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
～	時間目	Aコース	
1	～ 6	時間目 各種概論	
7	～ 24	時間目 課題内容の検討と課題提起	
25	～ 42	時間目 調査研究	
43	～ 60	時間目 企画検討	
61	～ 138	時間目 作品制作	
139	～ 162	時間目 作品チェック・手直し	
～	時間目	Bコース	
1	～ 6	時間目 各種概論	
7	～ 24	時間目 課題内容の検討と課題提起	
25	～ 60	時間目 資料収集・調査	
61	～ 120	時間目 資料収集・調査結果のまとめ	
121	～ 138	時間目 現状の課題と改善提案資料の作成	
139	～ 162	時間目 まとめと考察のチェック・手直し	
～	時間目	Cコース	
1	～ 20	時間目 建設業と建設業の会社の仕組み	
21	～ 45	時間目 建設業法と労働安全衛生法・同規則について	
46	～ 65	時間目 安全管理と工程管理について	
66	～ 82	時間目 品質管理と鉄筋工事管理方法	
83	～ 85	時間目 実習 木造基礎・躯体組み立て	
86	～ 97	時間目 実習 鉄筋組み立て	
98	～ 101	時間目 実習 コンクリート型枠組み立て	
102	～ 149	時間目 総合仮設計画と各種工事の仮設計画について	
150	～ 162	時間目 実行予算管理計画概要について	
⑬ その他		教科書	出版社：
		教材	著者：
配布資料			
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード
			011019

授 業 計 画 (シラバス)

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	卒業制作・演習		
② 対象学科	工業専門課程 建築工学科 (昼間部)	③ 履修学年	2
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	150
⑦ 担当教員(代表)	内藤 義幸	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>2年間で習得した建築の知識と技術の集大成として、「建築コース演習」をさらに発展的にスケールアップした作品制作や研究をする。</p> <p>Aコースは、個々の自由なテーマで実用的で魅力的な創造作品を完成させる。Bコースは、2級建築士取得を見据えた総合的な復習と、個々の自由なテーマで課題提示を行い、それについて調査・研究の成果をまとめる。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>A：建築設計（店舗設計除く）、店舗設計、建築CGパース、建築パース、建築模型等の中から希望の分野を選択し、担当教官のもと作品の制作をし卒業制作展を開催し出品する。</p> <p>B：建築施工管理、リフォームなどから各自のテーマを掲げ、担当教官のもと調査・研究を行いその成果を発表する。また並行して2級建築士試験対策の学習も行う。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
～ 時間目	Aコース		
1 ～ 6 時間目	全体説明・資料収集		
7 ～ 54 時間目	作品企画		
55 ～ 108 時間目	作品制作		
109 ～ 138 時間目	作品チェック・手直し指導		
139 ～ 150 時間目	展示用パネル等の作成・発表会		
～ 時間目	Bコース		
1 ～ 6 時間目	全体説明・資料収集		
7 ～ 12 時間目	建築士試験総合対策（計画）		
13 ～ 36 時間目	研究テーマの企画		
37 ～ 42 時間目	建築士試験総合対策（法規）		
43 ～ 102 時間目	調査・研究		
151 ～ 108 時間目	建築士試験総合対策（構造）		
109 ～ 120 時間目	研究成果のまとめ・チェック・手直し指導		
121 ～ 126 時間目	建築士試験総合対策（施工）		
127 ～ 138 時間目	建築士試験総合対策（設計製図）		
139 ～ 150 時間目	発表用パネル等の作成		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書		出版社：
	教材	配布資料	著 者：
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード
			011020

■ 建築設備科 教科目〔科目担当者〕一覽

設計実務経験者授業	864.5 時間	1621.0 時間
施工実務経験者授業	756.5 時間	
授業総時間	1845 時間	

科 目	学年	必選別	担 当 者	設計実務 経験者	施工実務 経験者	時間数
建築製図 I	1	必修	清水 英隆	○		102
建築製図 II	2	必修	青山 好之	○		40.5
建築 C A D	1	必修	石黒 達哉		○	68
設備 C A D	2	必修	富高 正寛		○	111
設備製図 I	1	必修	近藤 茂	○		51
設備製図 II	2	必修	近藤 茂	○		141
建築計画	1	必修	児玉 道子	○		68
計画実践	2	必修	青山 好之	○		48
設備計画	1	必修	富高 正寛		○	34
環境工学	1	必修	蜂須賀 亮子	○		34
給排水衛生設備	1	必修	篠原 弥生	○		68
空調設備	2	必修	富高 正寛		○	54
消防設備	1	必修	富高 正寛		○	68
構造力学	1	必修	森 登	○		68
建築一般構造	1	必修	内藤 義幸	○		68
建築材料	1	必修	近藤 幹	○		34
建築施工	1	必修	岩田 敏也		○	34
設備施工	1	必修	荒居 秀征		○	34
施工管理	2	必修	荒居 秀征		○	20
建築設備積算	2	必修	荒居 秀征		○	54
建築法規	2	必修	青山 好之	○		54
電気工事実習	2	必修	加藤 穰治			102
配管実習	1	必修	伊藤 充		○	102
上下水道	2	必修	西岡 英明	○		20
自動制御	2	必修	萬田 光晴			54
空調理論	1	必修	荒居 秀征		○	68
建築測量実験	2	必修	富高 正寛		○	7.5
電気設備 I	1	必修	萬田 光晴			34
電気設備 II	2	必修	萬田 光晴			34
熱源設備	1	必修	西岡 英明	○		68
建築 I T	2	必修	石黒 達哉		○	27
設備総合演習	2	必修	荒居 秀征		○	75

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築製図Ⅱ		
② 対象学科	工業専門課程 建築設備科	③ 履修学年	2
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	40.5
⑦ 担当教員(代表)	青山 好之	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. クライアントの希望や設計条件を正確に把握できる能力を身につける。 2. 設計資料の収集の仕方や分析、また、設計時に必要な計画上の基礎知識を増やす。 3. 提案の趣旨を効果的にプレゼンテーションできる能力を磨く。 			
⑪ 授業の概要			
<p>木造の設計では住宅の平面・立面をはじめ、伏図・軸組等の構造図までを描く。木造以外の設計では鉄筋コンクリート造の共同住宅(標準規模:住戸面積80㎡、延べ面積2400㎡、4階建て程度)・ホテル・図書館・学校・公民館と鉄骨造の商業施設の中から一つを選択し設計する。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 3 時間目	木造2階建専用住宅の設計図面（エスキース等）の作成		
4 ～ 9 時間目	木造2階建専用住宅の設計図面（配置図・求積図・面積表・1階平面図・2階平面図）の作成		
10 ～ 12 時間目	木造2階建専用住宅の設計図面（立面図・断面図）の作成		
13 ～ 15 時間目	木造2階建専用住宅の設計図面（矩計図）の作成		
16 ～ 21 時間目	木造2階建専用住宅の設計図面（各伏図）の作成		
22 ～ 24 時間目	木造2階建専用住宅の設計図面（各通り軸組図・仕上げ表・表紙）の作成		
25 ～ 27 時間目	木造2階建専用住宅の壁量計算書の作成		
28 ～ 30 時間目	非木造建築物の設計図面（エスキース等）の作成		
31 ～ 33 時間目	非木造建築物の設計図面（配置図・求積表・面積表・1階平面図・基準階平面図）の作成		
34 ～ 36 時間目	非木造建築物の設計図面（立面図・断面図等）の作成		
37 ～ 40.5 時間目	非木造建築物の設計図面（各種伏図・各種配筋図）の作成		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	出版社：	
	教材	著者：	
		配布資料	
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 020102

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築計画		
② 対象学科	工業専門課程 建築設備科	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	68
⑦ 担当教員(代表)	児玉 道子	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
各種建築物に関する知見を整理し、設計段階（基本設計）における空間計画（特に平面計画）の基礎知識を習得する。さらに、これらの知識を活用し設計製図に取り組める能力を養っていく。			
⑪ 授業の概要			
空間計画としての必須条件と、人間の生活・行動に関わる基本的な考え方を踏まえ、各種ビルディングタイプ別にその歴史・背景から、全体計画及び細部計画にいたるまでの知識を習得する。			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 2 時間目	計画と設計、居住施設の計画（住様式と住宅の変化）		
3 ～ 5 時間目	居住施設の計画（一戸建て住宅）		
6 ～ 8 時間目	居住施設の計画（集合住宅）		
9 ～ 10 時間目	居住住宅の計画（細部計画）		
11 ～ 14 時間目	学校教育施設の計画（幼稚園・保育所）		
15 ～ 18 時間目	学校教育施設の計画（小学校・中学校）		
19 ～ 20 時間目	社会教育施設の計画（生活圏とコミュニティ施設）		
21 ～ 24 時間目	社会教育施設の計画（図書館）		
25 ～ 28 時間目	社会教育施設の計画（美術館）		
29 ～ 30 時間目	社会教育施設の計画（コミュニティセンター・公民館）		
31 ～ 32 時間目	医療施設・福祉施設の計画（高齢化社会と建築計画）		
33 ～ 35 時間目	医療施設・福祉施設の計画（病院）		
36 ～ 38 時間目	医療施設・福祉施設の計画（高齢者施設）		
39 ～ 40 時間目	商業施設の計画（規模計画と経済効果）		
41 ～ 44 時間目	商業施設の計画（事務所ビル）		
45 ～ 48 時間目	商業施設の計画（劇場・音楽ホール）		
49 ～ 52 時間目	商業施設の計画（百貨店・スーパーマーケット・駐車場）		
53 ～ 60 時間目	商業施設の計画（宿泊施設・ホテル）		
61 ～ 68 時間目	外部空間の計画、まとめ		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	初学者の建築講座 建築計画	出版社：市ヶ谷出版社
	教材	配布資料	著者：佐藤考一・五十嵐太郎
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 020201

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	環境工学		
② 対象学科	工業専門課程 建築設備科	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	34
⑦ 担当教員(代表)	蜂須賀 亮子	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>健康で快適な室内環境を実現するための知識として、建築に求められる環境条件を物理量や感覚評価量を体系的にとらえて学び、それらを建築の設計・計画に応用し、利用できる能力の習得を目標とする。また、地球温暖化対策や資源の有効活用、廃棄物の再利用など環境に配慮した建築のあり方にも指針となるものとする。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>住環境の科学的基礎の学習。室内気候全般、空気環境、熱環境・光環境・音環境について人間との関わりを軸に学ぶ。また、人間の温熱感覚を表す指標やその測定方法、自然環境と建築物の基本的関係についても注目していく。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 5 時間目	太陽位置と日照		
6 ～ 7 時間目	日影・日射		
8 ～ 10 時間目	測光量と採光		
11 ～ 12 時間目	人工照明		
13 ～ 14 時間目	色彩の表し方と色彩計画		
15 ～ 16 時間目	空気汚染と必要換気量		
17 ～ 18 時間目	自然換気と機械換気		
19 ～ 20 時間目	伝熱の基本		
21 ～ 22 時間目	建物全体の熱特性		
23 ～ 24 時間目	湿り空気と空気線図		
25 ～ 26 時間目	結露		
27 ～ 28 時間目	温熱感覚指標		
29 ～ 30 時間目	気象と都市環境		
31 ～ 32 時間目	音の性質		
33 ～ 34 時間目	音響計画		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	初学者の建築講座 建築環境工学	出版社：市ヶ谷出版社
	教材		著者：倉淵 隆
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 020301

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	消防設備		
② 対象学科	工業専門課程 建築設備科	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	68
⑦ 担当教員(代表)	富高 正寛	⑧ 実務経験	施工実務経験者
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>防災計画は火災時に建物とその利用者の安全を確保することを目的とし、出火防止、延焼防止、煙制御、避難といった個々の防災対策が必要である。また、本格消火として屋内消火栓やスプリンクラー設備に代表される消防用設備等の設置基準や構造などを習得する。消防設備士が受験できるレベルまでの知識を学ぶ。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>防災・消防設備の設計、施工及びこれらの保安全管理や建築基準法並びに消防法から防災計画に必要な知識を学ぶ。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 2 時間目	高層ビルなどの防災センター		
3 ～ 4 時間目	燃焼の理論と火災		
5 ～ 6 時間目	連結送水管と連結散水設備		
7 ～ 17 時間目	屋内消火栓		
18 ～ 19 時間目	屋外消火設備		
20 ～ 30 時間目	スプリンクラー設備		
31 ～ 34 時間目	特殊な消火設備		
35 ～ 37 時間目	各消火器の性能と対応火災		
38 ～ 42 時間目	自動火災報知設備		
43 ～ 45 時間目	ガス漏れ火災警報設備、漏電火災報知設備		
46 ～ 47 時間目	避難設備		
48 ～ 50 時間目	消火活動上必要な施設		
51 ～ 60 時間目	建築基準法（耐火構造など）		
61 ～ 68 時間目	消防法、施行規則、規格		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	建築設備設計マニュアル：給排水衛生編	出版社：井上書院
	教材		著者：建築設備技術者協会
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 020403

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	構造力学		
② 対象学科	工業専門課程 建築設備科	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	68
⑦ 担当教員(代表)	森 登	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>構造物に外力が作用した場合、構造物を安全かつ経済的に設計するための、構造計算の基礎となる一般原理を習得する。建築技術者として建築物の安全性に関わる非常に重要な建築構造の一分野であることを認識し、構造計画・計算のための基礎知識を習得する。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>力学の入門(力のモーメント・反力等)から、静定構造物に働く各種の荷重・応力等について理解し、構造物を構成する部材の大きさや断面の形状による力学的性質等についても学ぶ。さらには、静定構造物の解法から発展させ、不静定構造物について、より応力算定としては高度で複雑な計算知識と理論（固定モーメント法やD値法等）を習得する。崩壊荷重（耐力）を求める方法（仮想仕事法等）についても学ぶ。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 2 時間目	力および荷重の基礎		
3 ～ 4 時間目	力のモーメント		
5 ～ 6 時間目	力の合成と分解		
7 ～ 8 時間目	力の釣り合い		
9 ～ 12 時間目	反力の求め方		
13 ～ 16 時間目	単純梁の応力		
17 ～ 18 時間目	片持ち梁の応力		
19 ～ 22 時間目	単純梁系ラーメンの応力		
23 ～ 24 時間目	3ヒンジラーメンの解法		
25 ～ 42 時間目	トラスの解法（節点法・切断法）		
43 ～ 44 時間目	断面に関する数量（図心）		
45 ～ 47 時間目	断面に関する数量（断面2次モーメント・断面係数）		
48 ～ 50 時間目	軸応力度（ひずみ度・ヤング係数）・せん断応力度		
51 ～ 52 時間目	曲げ応力度		
53 ～ 54 時間目	許容応力度・許容曲げモーメント		
55 ～ 56 時間目	曲げ応力度と軸応力度の組み合わせ		
57 ～ 58 時間目	座屈		
59 ～ 60 時間目	たわみ		
61 ～ 68 時間目	不静定構造（不静定構造とは・不静定構造の解法）		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	基礎から学ぶ 建築構造設計 及び 配布資料	出版社：実教出版 著者：実教出版編修部
	教材		
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 020501

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築一般構造		
② 対象学科	工業専門課程 建築設備科	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	68
⑦ 担当教員(代表)	内藤 義幸	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
建築物の概要と構造の種類、構造方式の考え方について理解する。建築設計者・施工者としての必要な構造に関する技術・知識を養う。			
⑪ 授業の概要			
各種躯体（木造・鉄筋コンクリート造・鉄骨造・組積造・プレストレストコンクリート造等）の基本的な構法や、各部構法（基礎・屋根・壁・開口部・床・階段・天井・造作と納まり等）を学ぶ。そして、1つの建築物が建っていくまでの流れを理解したり、現存する建築物の構法についても理解を深める。			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 2 時間目	建物にはたらく力（荷重、外力）		
3 ～ 4 時間目	木構造（木材、木構造の特徴）		
5 ～ 8 時間目	木構造（在来工法の基礎、床下換気口）		
9 ～ 16 時間目	木構造（軸組、小屋組、床組）		
17 ～ 24 時間目	木構造（筋交い、壁、壁量計算）		
25 ～ 28 時間目	木構造（階段、継手・仕口、金物）		
29 ～ 30 時間目	木構造（柱組み壁工法）		
31 ～ 32 時間目	鉄筋コンクリート造（コンクリートと鉄筋）		
33 ～ 34 時間目	鉄筋コンクリート造（特徴、原理、構造形式）		
35 ～ 36 時間目	鉄筋コンクリート造（配筋計画）		
37 ～ 42 時間目	鉄筋コンクリート造（各部の構造）		
43 ～ 43 時間目	鉄筋コンクリート造（階段）		
44 ～ 45 時間目	鉄筋コンクリート造（壁式鉄筋コンクリート構造）		
46 ～ 47 時間目	鉄骨造（鋼材の特徴）		
48 ～ 49 時間目	鉄骨造（構造形式）		
50 ～ 53 時間目	鉄骨造（接合）		
54 ～ 55 時間目	鉄骨造（部材の設計）		
56 ～ 60 時間目	鉄骨造（各部の構造）		
61 ～ 62 時間目	鉄骨造（床板、階段、耐火被覆）		
63 ～ 64 時間目	鉄骨鉄筋コンクリート造		
65 ～ 66 時間目	補強コンクリートブロック造		
67 ～ 68 時間目	プレストレストコンクリート造		
～ 時間目			
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	図説 やさしい建築一般構造	出版社：学芸出版社
	教材		著者：今村仁美・田中美都
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 020601

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築施工		
② 対象学科	工業専門課程 建築設備科	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	34
⑦ 担当教員(代表)	岩田 敏也	⑧ 実務経験	施工実務経験者
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
建築生産をはじめとし、躯体工事、仕上げ工事等の各種工事から1つの現場の流れについて理解し、建築施工者としての必要な施工に関する技術・知識を養う。			
⑪ 授業の概要			
鉄筋コンクリート・鉄骨・木・土工事等の躯体工事の基本的な施工方法や左官・防水・内装等の仕上げ工事の施工方法の知識を学ぶ。そのほか工事の請負契約や請負制度の概略を学ぶ。			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 2 時間目	建築生産（設計と施工）		
3 ～ 4 時間目	施工計画（品質管理・材料管理・工程管理・安全管理・工程表の理解）		
5 ～ 6 時間目	仮設工事・準備工事（共通仮設工事・直接仮設工事・施工機械）		
7 ～ 8 時間目	土工事・地業・基礎工事		
9 ～ 11 時間目	躯体工事（鉄筋コンクリート工事）		
12 ～ 14 時間目	躯体工事（鉄骨造）		
15 ～ 16 時間目	躯体工事（木工事）		
17 ～ 18 時間目	仕上工事（屋根工事）		
19 ～ 20 時間目	仕上工事（防水工事）		
21 ～ 22 時間目	仕上工事（左官工事）		
23 ～ 24 時間目	仕上工事（タイル工事・石工事）		
25 ～ 26 時間目	仕上工事（建具工事・ガラス工事）		
27 ～ 28 時間目	仕上工事（内装工事）		
29 ～ 30 時間目	仕上工事（塗装工事）		
31 ～ 32 時間目	仕上工事（断熱工事）		
33 ～ 34 時間目	建物の引渡し		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	建築施工テキスト	出版社：井上書院
	教材		著者：兼歳昌直
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 020801

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	電気工事实習		
② 対象学科	工業専門課程 建築設備科	③ 履修学年	2
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	102
⑦ 担当教員(代表)	加藤 穰治	⑧ 実務経験	
⑨ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
現在建物に不可欠な電気の基本を知り、用途別による電気配電方式や施工基準を理解する。また、第2種電気工事士技能試験の受験レベルに達する知識や技術を習得する。			
⑪ 授業の概要			
電気工事に使用される管材や付属品の種類及び器具を理解し、電気配線図（単線）から複線に置き換え、ケーブルなどを用いて接続を行う。また、電気設備基準を理解し、施工上の留意点などの知識を学ぶ。			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 4 時間目	配線工具や付属品の種類とその使い方。		
5 ～ 8 時間目	電線の切断と線出しのポイント		
9 ～ 14 時間目	(公表問題) No. 1		
15 ～ 20 時間目	(公表問題) No. 2		
21 ～ 26 時間目	(公表問題) No. 3		
27 ～ 32 時間目	(公表問題) No. 4		
33 ～ 38 時間目	(公表問題) No. 5		
39 ～ 44 時間目	(公表問題) No. 6		
45 ～ 50 時間目	(公表問題) No. 7		
51 ～ 56 時間目	(公表問題) No. 8、No. 9		
57 ～ 62 時間目	(公表問題) No. 10、No. 11		
63 ～ 70 時間目	(公表問題) No. 12、No. 13		
71 ～ 76 時間目	(時間測定) No. 1、No. 2		
77 ～ 82 時間目	(時間測定) No. 3、No. 4		
83 ～ 86 時間目	(時間測定) No. 5、No. 6		
87 ～ 92 時間目	(時間測定) No. 7、No. 8		
93 ～ 98 時間目	(時間測定) No. 9、No. 10		
99 ～ 102 時間目	(時間測定) No. 11、No. 12、No. 13及び試験に向けての諸注意		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	第2種電気工事士技能試験 候補問題丸わかり	出版社：電気書院
	教材		著者：「工事と受験」編集部
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 021006

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	自動制御		
② 対象学科	工業専門課程 建築設備科	③ 履修学年	2
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	54
⑦ 担当教員(代表)	萬田 光晴	⑧ 実務経験	
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>制御技術は今日の生産現場の自動化、省力化、あるいは製品機能の高度化が進む中でその根本となるもので、これらに関連する仕事に従事する人々にとって必要かつ重要である。設備分野でも空気調和設備の空調機、冷凍機、ボイラ、汎用機器などの自動運転が不可欠であり、有接点、無接点シーケンス制御の基本を習得することを目標とする。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>有接点リレーシーケンス制御で押しボタン・電磁リレーなどを使用した回路や、無接点シーケンス制御でダイオードやトランジスタなどの半導体を使用した回路など、いろいろな論理回路を学び、電動機を運転制御するなどの回路の内容を読み取る能力を習得する。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 2 時間目	リレーシーケンス制御とは		
3 ～ 10 時間目	制御とスイッチ、検出器操作機器、論理回路		
11 ～ 16 時間目	リレーの基本回路、主回路と操作回路		
17 ～ 22 時間目	優先回路、タイマーとカウンター、応用回路		
23 ～ 28 時間目	無接点論理回路		
35 ～ 40 時間目	AND、OR回路		
41 ～ 46 時間目	条件制御、NAND回路		
47 ～ 50 時間目	順序制御、優先回路		
51 ～ 54 時間目	時間制御、応用回路		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	リレーシーケンス制御 無接点シーケンス制御	出版社：廣済堂出版 著者：松下電器産業株式会社 製造・技術研究所
	教材		
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 021010

授 業 計 画 (シラバス)

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	熱源設備		
② 対象学科	工業専門課程 建築設備科	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	68
⑦ 担当教員(代表)	西岡 英明	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>ボイラーは暖房給湯などの熱源供給設備として、また工場では生産活動の熱エネルギーとして産業現場で重要な役割を果たしている。その維持管理を行う国家資格であるボイラー技士免許に対して必要な能力を養う。 冷凍設備機器の構成を習得させ、冷凍設備の概要及び国家資格である冷凍第3種冷凍機械責任者試験を受験する上で必要な能力を養う。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>構造、取扱い、燃料・燃焼や関係法令であるボイラー及び圧力容器の知識を習得する。 冷凍設備の用語・方式・機器の構成など全般的な考え方や高压ガス保安法に基づく冷凍関係法規の知識を習得する。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 2 時間目	(構造) 熱及び蒸気		
3 ～ 6 時間目	(構造) 各種ボイラーの概要と構造		
7 ～ 10 時間目	(構造) 附属品及び附属装置		
11 ～ 12 時間目	(構造) ボイラーの自動制御		
13 ～ 14 時間目	(取扱い) ボイラーの運転操作		
15 ～ 18 時間目	(取扱い) 附属品等の取扱い		
19 ～ 17 時間目	(取扱い) ボイラーの保全		
18 ～ 19 時間目	(取扱い) 水管理		
20 ～ 21 時間目	(燃料及び燃焼) 燃料		
22 ～ 22 時間目	(燃料及び燃焼) 燃焼方式と燃焼装置		
23 ～ 23 時間目	(燃料及び燃焼) 燃焼室及び通風		
24 ～ 25 時間目	(関係法令) ボイラーの定義と伝熱面積		
26 ～ 30 時間目	(燃料及び燃焼) 製造から廃止に至るまでの各種届け出・ボイラー室		
31 ～ 34 時間目	(燃料及び燃焼) ボイラー技士免許・ボイラー構造規格		
35 ～ 38 時間目	冷凍設備の概論・原理		
39 ～ 42 時間目	冷凍サイクル・p-h線図の理解		
43 ～ 46 時間目	冷凍機 (圧縮式・吸収式)		
47 ～ 48 時間目	冷媒及びブライン		
49 ～ 52 時間目	圧縮機の構造		
53 ～ 58 時間目	凝縮器・蒸発器		
59 ～ 62 時間目	熱の移動		
63 ～ 64 時間目	付属機器・冷媒配管		
65 ～ 68 時間目	法令 (許可・届出・製造施設・変更・完成検査等)		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	・イラストで学ぶ冷凍空調入門 ・2級ボイラー技士教本	出版社：セーフティーマネージメントサービス 著 者：著者：日本ボイラー協会
	教材		
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 021016

■ 大工技術科 教科目〔科目担当者〕一覧

設計実務経験者授業	894.5 時間	1465.0 時間
施工実務経験者授業	570.5 時間	
授業総時間	1878 時間	

科 目	学年	必選別	担 当 者	設計実務 経験者	施工実務 経験者	時間数
建築製図Ⅰ	1	必修	稲生 哲雄	○		204
建築製図Ⅱ	2	必修	石川 義雄	○		222
建築CADⅠ	1	必修	山田 梨佳	○		68
建築CADⅡ	2	必修	豊田 直美			54
建築計画	1	必修	森本 初雄	○		68
計画実践	2	必修	佐藤 龍彦	○		40.5
建築史	2	必修	岩田 敏也		○	20
環境工学	1	必修	蜂須賀 亮子	○		34
建築設備	2	必修	西岡 英明	○		54
構造力学Ⅰ	1	必修	大石 啓明	○		68
構造力学Ⅱ	2	必修	小牧 友久	○		34
建築一般構造	1	必修	内藤 義幸	○		68
建築材料	1	必修	近藤 幹	○		34
建築施工	1	必修	長屋 充幸			68
施工図	2	必修	長島 建雄		○	20
建築積算	2	必修	長島 建雄		○	34
建築法規Ⅰ	1	必修	青山 好之	○		68
建築法規Ⅱ	2	必修	松井 一将			54
施工管理	2	必修	長屋 充幸			34
建築ITⅠ	1	必修	臼井 あゆみ			34
建築ITⅡ	2	必修	臼井 あゆみ			27
大工実習Ⅰ	1	必修	平山 繁男		○	204
大工実習Ⅱ	2	必修	平山 繁男		○	222
リフォーム計画	2	必修	松井 一将			54
建築士演習	2	必修	松井 一将			20
建築測量実験	2	必修	富高 正寛		○	40.5
大工総合演習	2	必修	平山 繁男		○	30

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築製図Ⅱ		
② 対象学科	工業専門課程 大工技術科	③ 履修学年	2
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	222
⑦ 担当教員(代表)	石川 義雄	⑥ 授業形態	演習
⑧ 実務経験	設計実務経験者		
⑨ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. クライアントの希望や設計条件を正確に把握できる能力を身につける。 2. 設計資料の収集の仕方や分析、また、設計時に必要な計画上の基礎知識を増やす。 3. 提案の趣旨を効果的にプレゼンテーションできる能力を磨く。 			
⑪ 授業の概要			
<p>木造の設計では住宅の平面・立面をはじめ、伏図・軸組等の構造図までを描く。木造以外の設計では鉄筋コンクリート造の共同住宅(標準規模:住戸面積80㎡、延べ面積2400㎡、4階建て程度)・ホテル・図書館・学校・公民館と鉄骨造の商業施設の中から一つを選択し設計する。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ~ 12 時間目	木造2階建専用住宅の設計図面（エスキース等）の作成		
13 ~ 24 時間目	木造2階建専用住宅の設計図面（配置図、求積図、面積表、1階平面図、2階平面図）の作成		
25 ~ 30 時間目	木造2階建専用住宅の設計図面（立面図、断面図）の作成		
31 ~ 36 時間目	木造2階建専用住宅の設計図面（矩計図）の作成		
37 ~ 48 時間目	木造2階建専用住宅の設計図面（1階平面詳細図、階平面詳細図）の作成		
49 ~ 54 時間目	木造2階建専用住宅の設計図面（展開図）		
55 ~ 60 時間目	木造2階建専用住宅の設計図面（基礎伏図、1階床伏図）の作成		
61 ~ 66 時間目	木造2階建専用住宅の設計図面（2階床伏図兼1階小屋伏図、2階小屋伏図）の作成		
67 ~ 72 時間目	木造2階建専用住宅の設計図面（各通り軸組図、仕上げ表、表紙）の作成		
73 ~ 78 時間目	木造2階建専用住宅の壁量計算書の作成		
79 ~ 84 時間目	木造2階建専用住宅の確認申請書の作成		
85 ~ 96 時間目	非木造建築物の設計図面（エスキース等）の作成		
97 ~ 108 時間目	非木造建築物の設計図面（配置図、求積表、面積表、1階平面図）の作成		
109 ~ 114 時間目	非木造建築物の設計図面（基準階平面図等）の作成		
115 ~ 120 時間目	非木造建築物の設計図面（屋階平面図等）の作成		
121 ~ 126 時間目	非木造建築物の設計図面（立面図等）の作成		
127 ~ 132 時間目	非木造建築物の設計図面（断面図等）の作成		
133 ~ 138 時間目	非木造建築物の設計図面（1階平面詳細図等）の作成		
139 ~ 144 時間目	非木造建築物の設計図面（基準階平面詳細図等）の作成		
145 ~ 150 時間目	非木造建築物の設計図面（断面詳細図等）の作成		
151 ~ 156 時間目	非木造建築物の設計図面（大梁、小梁、柱の断面リスト）の作成		
157 ~ 162 時間目	非木造建築物の設計図面（各種伏図、各種配筋図）の作成		
163 ~ 192 時間目	木造2階建兼用住宅の設計図面（1・2階平面図、配置図、立面図、2階床伏図、矩計図）の作成		
193 ~ 222 時間目	非木造建築物の設計図面（1階平面図兼配置図、2階平面図、立面図、断面図）の作成		
⑬ その他	教科書	超入門 建築製図	出版社：市ヶ谷出版社
	教材	配布資料	著者：永井孝保 他
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 030102

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築CADⅡ		
② 対象学科	工業専門課程 大工技術科	③ 履修学年	2
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	54
⑦ 担当教員(代表)	豊田 直美	⑧ 実務経験	
⑨ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>JW_CADやAutoCAD等のCADシステムの応用操作を習得し、建築設計プロジェクトの中でCADを利用した設計図作成を統括できる力を習得する。 作図スピード向上を目指し、更にCADデータを他のソフトで活用する能力と知識を習得する。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>基本的操作方法を元に、応用操作の習得を目指し、実際の非木造建築物(鉄筋コンクリート造共同住宅(4階建2400㎡程度)・ホテル・図書館・学校、鉄骨造の商業施設等)の各種図面の作成をおこなう。さらに、CADシステムの特性を生かした、立体図・日影図等の作図を行う。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 7 時間目	RC造建築物の設計図面課題1 (1階平面図等) の作成		
8 ～ 14 時間目	RC造建築物の設計図面課題1 (基準階平面図等) の作成		
15 ～ 21 時間目	RC造建築物の設計図面課題1 (立面図等) の作成		
22 ～ 27 時間目	RC造建築物の設計図面課題1 (断面図等) の作成		
28 ～ 29 時間目	RC造建築物の設計図面課題1 (立体図・日影図) の作成		
30 ～ 35 時間目	S造建築物の設計図面課題2 (1階平面図等) の作成		
36 ～ 41 時間目	S造建築物の設計図面課題2 (基準階平面図等) の作成		
42 ～ 47 時間目	S造建築物の設計図面課題2 (立面図等) の作成		
48 ～ 52 時間目	S造建築物の設計図面課題2 (断面図等) の作成		
53 ～ 54 時間目	S造建築物の設計図面課題2 (立体図・日影図) の作成		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	出版社：	
	教材	著者：	
		配布資料	
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 030104

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築計画		
② 対象学科	工業専門課程 大工技術科	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	68
⑦ 担当教員(代表)	森本 初雄	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
各種建築物に関する知見を整理し、設計段階（基本設計）における空間計画（特に平面計画）の基礎知識を習得する。さらに、これらの知識を活用し設計製図に取り組める能力を養っていく。			
⑪ 授業の概要			
空間計画としての必須条件と、人間の生活・行動に関わる基本的な考え方を踏まえ、各種ビルディングタイプ別にその歴史・背景から、全体計画及び細部計画にいたるまでの知識を習得する。			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 2 時間目	計画と設計、居住施設の計画（住様式と住宅の変化）		
3 ～ 5 時間目	居住施設の計画（一戸建て住宅）		
6 ～ 8 時間目	居住施設の計画（集合住宅）		
9 ～ 10 時間目	居住住宅の計画（細部計画）		
11 ～ 14 時間目	学校教育施設の計画（幼稚園・保育所）		
15 ～ 18 時間目	学校教育施設の計画（小学校・中学校）		
19 ～ 20 時間目	社会教育施設の計画（生活圏とコミュニティ施設）		
21 ～ 24 時間目	社会教育施設の計画（図書館）		
25 ～ 28 時間目	社会教育施設の計画（美術館）		
29 ～ 30 時間目	社会教育施設の計画（コミュニティセンター・公民館）		
31 ～ 32 時間目	医療施設・福祉施設の計画（高齢化社会と建築計画）		
33 ～ 35 時間目	医療施設・福祉施設の計画（病院）		
36 ～ 38 時間目	医療施設・福祉施設の計画（高齢者施設）		
39 ～ 40 時間目	商業施設の計画（規模計画と経済効果）		
41 ～ 44 時間目	商業施設の計画（事務所ビル）		
45 ～ 48 時間目	商業施設の計画（劇場・音楽ホール）		
49 ～ 52 時間目	商業施設の計画（百貨店・スーパーマーケット・駐車場）		
53 ～ 60 時間目	商業施設の計画（宿泊施設・ホテル）		
61 ～ 68 時間目	外部空間の計画、まとめ		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	初学者の建築講座 建築計画	出版社：市ヶ谷出版社
	教材	配布資料	著者：佐藤考一・五十嵐太郎
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 030201

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	環境工学		
② 対象学科	工業専門課程 大工技術科	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	34
⑦ 担当教員(代表)	蜂須賀 亮子	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>健康で快適な室内環境を実現するための知識として、建築に求められる環境条件を物理量や感覚評価量を体系的にとらえて学び、それらを建築の設計・計画に応用し、利用できる能力の習得を目標とする。また、地球温暖化対策や資源の有効活用、廃棄物の再利用など環境に配慮した建築のあり方にも指針となるものとする。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>住環境の科学的基礎の学習。室内気候全般、空気環境、熱環境・光環境・音環境について人間との関わりを軸に学ぶ。また、人間の温熱感覚を表す指標やその測定方法、自然環境と建築物の基本的関係についても注目していく。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 5 時間目	太陽位置と日照		
6 ～ 7 時間目	日影・日射		
8 ～ 10 時間目	測光量と採光		
11 ～ 12 時間目	人工照明		
13 ～ 14 時間目	色彩の表し方と色彩計画		
15 ～ 17 時間目	空気汚染と必要換気量		
18 ～ 19 時間目	自然換気と機械換気		
20 ～ 21 時間目	伝熱の基本		
22 ～ 時間目	建物全体の熱特性		
23 ～ 24 時間目	湿り空気と空気線図		
25 ～ 26 時間目	結露		
27 ～ 28 時間目	温熱感覚指標		
29 ～ 30 時間目	気象と都市環境		
31 ～ 32 時間目	音の性質		
33 ～ 34 時間目	音響計画		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	初学者の建築講座 建築環境工学	出版社：市ヶ谷出版社
	教材		著者：倉渕 隆
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 030301

授 業 計 画 (シラバス)

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築設備		
② 対象学科	工業専門課程 大工技術科	③ 履修学年	2
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	54
⑦ 担当教員(代表)	西岡 英明	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
建築設備の概要を理解させる。建築と設備の関連性について習得させ、建築技術者として、建築設備の知識を育成する。 建築設備の用語・方式を理解させる。建築設備全般的な考え方を理解させる。建築技術者として、建築設備の知識を習得する。			
⑪ 授業の概要			
人間生活をより快適でより安全とするための具体的な各種設備（給水・排水・ガス設備・電気設備・空調設備・電気設備等）について、用語から各種方式までを理解し、建築設備への全体的な考え方と適切な方式の選択方法などを学習する。			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 2 時間目	建築設備の分類・概論		
3 ～ 4 時間目	給排水衛生設備の概要（役割・構成等）		
5 ～ 10 時間目	給水設備（方式の種類と特徴・必要圧力・タンク設置規定・管材と施工方法等）		
11 ～ 14 時間目	給湯設備（方式の種類と特徴・給湯温度・管材と施工方法等）		
15 ～ 20 時間目	排水設備・通気設備（方式の種類と特徴・排水トラップ・管材と施工方法等）		
21 ～ 24 時間目	屋外排水設備（排水枘の種類・方式・施工法等）		
25 ～ 28 時間目	排水処理設備（排水処理方法・浄化槽の性能）		
29 ～ 30 時間目	空気調和設備の概要（役割・構成等）		
31 ～ 38 時間目	空気調和設備（室内環境基準・種類・特徴・空調負荷・空調機器等）		
39 ～ 42 時間目	換気設備（方式の種類と特徴・必要換気量の算出等）		
43 ～ 44 時間目	電気設備の概要（役割・構成等）		
45 ～ 46 時間目	受変電・幹線・動力設備		
47 ～ 48 時間目	照明・コンセント設備		
49 ～ 50 時間目	消火設備（方式の種類と特徴等）		
51 ～ 52 時間目	防災設備（自動火災報知設備）		
53 ～ 54 時間目	ガス設備（方式・種類・機器性能等）		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	初学者の建築講座 建築設備	出版社：市ヶ谷出版社
	教材		著 者：大塚雅之
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 030401

授 業 計 画 (シラバス)

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築一般構造		
② 対象学科	工業専門課程 大工技術科	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	68
⑦ 担当教員(代表)	内藤 義幸	⑥ 授業形態	講義
⑧ 実務経験	設計実務経験者		
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
建築物の概要と構造の種類、構造方式の考え方について理解する。建築設計者・施工者としての必要な構造に関する技術・知識を養う。			
⑪ 授業の概要			
各種躯体（木造・鉄筋コンクリート造・鉄骨造・組積造・プレストレストコンクリート造等）の基本的な構法や、各部構法（基礎・屋根・壁・開口部・床・階段・天井・造作と納まり等）を学ぶ。そして、1つの建築物が建っていくまでの流れを理解したり、現存する建築物の構法についても理解を深める。			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 2 時間目	建物にはたらく力（荷重、外力）		
3 ～ 4 時間目	木構造（木材、木構造の特徴）		
5 ～ 8 時間目	木構造（在来工法の基礎、床下換気口）		
9 ～ 16 時間目	木構造（軸組、小屋組、床組）		
17 ～ 24 時間目	木構造（筋交い、壁、壁量計算）		
25 ～ 28 時間目	木構造（階段、継手・仕口、金物）		
29 ～ 30 時間目	木構造（柱組み壁工法）		
31 ～ 32 時間目	鉄筋コンクリート造（コンクリートと鉄筋）		
33 ～ 34 時間目	鉄筋コンクリート造（特徴、原理、構造形式）		
35 ～ 36 時間目	鉄筋コンクリート造（配筋計画）		
37 ～ 42 時間目	鉄筋コンクリート造（各部の構造）		
43 ～ 43 時間目	鉄筋コンクリート造（階段）		
44 ～ 45 時間目	鉄筋コンクリート造（壁式鉄筋コンクリート構造）		
46 ～ 47 時間目	鉄骨造（鋼材の特徴）		
48 ～ 49 時間目	鉄骨造（構造形式）		
50 ～ 53 時間目	鉄骨造（接合）		
54 ～ 55 時間目	鉄骨造（部材の設計）		
56 ～ 60 時間目	鉄骨造（各部の構造）		
61 ～ 62 時間目	鉄骨造（床板、階段、耐火被覆）		
63 ～ 64 時間目	鉄骨鉄筋コンクリート造		
65 ～ 66 時間目	補強コンクリートブロック造		
67 ～ 68 時間目	プレストレストコンクリート造		
～ 時間目			
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	図説 やさしい建築一般構造	出版社：学芸出版社
	教材		著 者：今村仁美・田中美都
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード
			030601

授 業 計 画 (シラバス)

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築施工		
② 対象学科	工業専門課程 大工技術科	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	68
⑦ 担当教員(代表)	長屋 充幸	⑧ 実務経験	
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
建築生産をはじめとし、躯体工事、仕上げ工事等の各種工事から1つの現場の流れについて理解し、建築施工者としての必要な施工に関する技術・知識を養う。			
⑪ 授業の概要			
鉄筋コンクリート・鉄骨・木・土工事等の躯体工事の基本的な施工方法や左官・防水・内装等の仕上げ工事の施工方法の知識を学ぶ。そのほか工事の請負契約や請負制度の概略を学ぶ。			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 2 時間目	建築生産（設計と施工）		
3 ～ 6 時間目	施工計画（品質管理・材料管理・工程管理・安全管理・工程表の理解）		
7 ～ 10 時間目	仮設工事・準備工事（共通仮設工事・直接仮設工事・施工機械）		
11 ～ 16 時間目	土工事・地業・基礎工事		
17 ～ 24 時間目	躯体工事（鉄筋コンクリート工事）		
25 ～ 30 時間目	躯体工事（鉄骨造）		
31 ～ 38 時間目	躯体工事（木工事）		
39 ～ 42 時間目	仕上工事（屋根工事）		
43 ～ 46 時間目	仕上工事（防水工事）		
47 ～ 50 時間目	仕上工事（左官工事）		
51 ～ 54 時間目	仕上工事（タイル工事・石工事）		
55 ～ 58 時間目	仕上工事（建具工事・ガラス工事）		
59 ～ 62 時間目	仕上工事（内装工事）		
63 ～ 64 時間目	仕上工事（塗装工事）		
65 ～ 66 時間目	仕上工事（断熱工事）		
67 ～ 68 時間目	建物の引渡し		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	建築施工テキスト	出版社：井上書院
	教材		著者：兼歳昌直
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 030801

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	リフォーム計画		
② 対象学科	工業専門課程 大工技術科	③ 履修学年	2
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	54
⑦ 担当教員(代表)	松井 一将	⑧ 実務経験	
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
建築物のリフォームに関し、その計画立案のプロセスを習得する。その際に必要となる知識として、建築計画・建築構造・建築施工・建築設備・建築関係法規などの建築学の他に、科学・民法・色彩・心理学等、の様々な分野の基礎知識も習得する。			
⑪ 授業の概要			
住宅を題材に建て主の要望を想定し、その要望を高次元で具体化するプロセスを学習する。敷地条件や既存建物、家族構成などを様々に想定し、その条件の中で、動線に工夫のある間取りやライフスタイルに合わせた間取りを計画する。具体的な事例を通してその企画から設計・見積もり・施工までを総合的に学ぶ。			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 6 時間目	リフォームの現状とその目的について		
7 ～ 12 時間目	水回りについて（キッチン、バス・洗面・トイレ、給湯・ソーラー）		
13 ～ 18 時間目	内装について（床材、インテリア、建具、防犯・防災）		
19 ～ 24 時間目	外装について（窓まわり、開口部、外壁、屋根材、エクステリア、塗料）		
25 ～ 30 時間目	構造について（断熱材、床下・資材、耐震）		
31 ～ 34 時間目	敷地・家族構成・予算等の条件設定		
35 ～ 38 時間目	リフォーム計画個別調査書作成		
39 ～ 42 時間目	検討図の作成について		
43 ～ 48 時間目	検討図の確認、確定について		
49 ～ 54 時間目	計画図の作成について		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	住宅設備・建材選び ここがポイント	出版社：リフォーム産業新聞社 著者：加覧光次郎
	教材		
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 031008

■ インテリアデザイン科 教科目〔科目担当者〕一覧

設計実務経験者授業	907 時間	1042.0 時間
施工実務経験者授業	135 時間	
授業総時間	1858 時間	

科 目	学年	必選別	担 当 者	設計実務 経験者	施工実務 経験者	時間数
建築製図	1	必修	柿野 孝彰			204
建築CAD	1	必修	吉岡 竜巳			68
インテリア設計製図	2	必修	平内 謙介	○		162
建築計画	1	必修	小牧 友久	○		51
建築デザイン史	2	必修	岩田 敏也		○	20
計画実践	2	必修	杉山 直樹	○		81
環境工学	1	必修	近藤 幹	○		34
建築設備	2	必修	平内 謙介	○		54
構造力学	1	必修	小牧 友久	○		68
建築一般構造	1	必修	石黒 達哉		○	51
建築材料	1	必修	二宮 伸吾	○		34
建築施工	1	必修	児玉 道子	○		68
施工管理	2	必修	伊丹 勤		○	34
建築法規	2	必修	川田 英男			54
建築測量実験	2	必修	岩雲 康弘		○	30
建築IT I	1	必修	臼井 あゆみ			34
建築IT II	2	必修	鈴木 亜紀			27
デジタルデザインI	1	必修	井熊 里佳	○		51
デジタルデザインII	2	必修	柿野 孝彰			25.5
CGI	1	必修	柿野 孝彰			51
CGII	2	必修	横山 将基			40.5
建築インテリアパースI	1	必修	平内 謙介	○		51
建築インテリアパースII	2	必修	平内 謙介	○		40.5
建築インテリア模型	1	必修	牧 秀明	○		51
ファニチュアデザイン	2	必修	井熊 里佳	○		25.5
照明デザイン	1	必修	平内 謙介	○		25.5
デッサン	1	必修	岩村 和信	○		76.5
色彩学	1	必修	井熊 里佳	○		34
建築総合演習（実践）	2	必修	柿野 孝彰			162
卒業制作・演習	2	必修	柿野 孝彰			150

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	インテリア設計製図		
② 対象学科	工業専門課程 インテリアデザイン科	③ 履修学年	2
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	162
⑦ 担当教員(代表)	平内 謙介	⑥ 授業形態	演習
⑧ 実務経験	設計実務経験者		
⑨ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
1. 店舗設計・住宅設計の基礎知識に基づいた設計能力及び表現技術と、高度なプレゼンテーション力を習得する。 イメージしたプランやデザイン、色や形などを図面化し、完成まで進めて行く技術と手段を身につける。			
⑪ 授業の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・店舗設計・住宅設計における必要図面の作成能力の習得 ・TPOに対応できる企画力・表現技術の向上 ・説得力のあるプレゼンテーション技術の取得 			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 3 時間目	第1 課題ガイダンス		
4 ～ 21 時間目	住宅・店舗の設計エスキース等の作成		
22 ～ 27 時間目	住宅・店舗の設計の設計図面（平面図）の作成		
28 ～ 33 時間目	住宅・店舗の設計の設計図面（立面図・断面図）の作成		
34 ～ 39 時間目	住宅・店舗の設計の設計図面（展開図）の作成		
40 ～ 57 時間目	住宅・店舗の設計の模型の作成		
58 ～ 75 時間目	住宅・店舗の設計のプレゼンテーションの作成		
76 ～ 81 時間目	講評		
82 ～ 84 時間目	第2 課題ガイダンス		
85 ～ 102 時間目	住宅・店舗の設計エスキース等の作成		
103 ～ 108 時間目	住宅・店舗の設計の設計図面（平面図）の作成		
109 ～ 114 時間目	住宅・店舗の設計の設計図面（立面図・断面図）の作成		
115 ～ 120 時間目	住宅・店舗の設計の設計図面（展開図）の作成		
121 ～ 138 時間目	住宅・店舗の設計の模型の作成		
139 ～ 156 時間目	住宅・店舗の設計のプレゼンテーションの作成		
157 ～ 162 時間目	講評		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	コンパクト建築設計資料集成 [インテリア]	出版社：丸善株式会社
	教材		著者：社団法人 日本建築学会
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 040107

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築計画		
② 対象学科	工業専門課程 インテリアデザイン科	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	51
⑦ 担当教員(代表)	小牧 友久	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
各種建築物に関する知見を整理し、設計段階（基本設計）における空間計画（特に平面計画）の基礎知識を習得する。さらに、これらの知識を活用し設計製図に取り組める能力を養っていく。			
⑪ 授業の概要			
空間計画としての必須条件と、人間の生活・行動に関わる基本的な考え方を踏まえ、各種ビルディングタイプ別にその歴史・背景から、全体計画及び細部計画にいたるまでの知識を習得する。			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 3 時間目	計画と設計、居住施設の計画（住様式と住宅の変化）		
4 ～ 7 時間目	居住施設の計画（一戸建て住宅）		
8 ～ 11 時間目	居住施設の計画（集合住宅）		
12 ～ 15 時間目	居住住宅の計画（細部計画）		
16 ～ 18 時間目	学校教育施設の計画（幼稚園・保育所）		
19 ～ 22 時間目	学校教育施設の計画（小学校・中学校）		
23 ～ 24 時間目	社会教育施設の計画（生活圏とコミュニティ施設）		
25 ～ 27 時間目	社会教育施設の計画（図書館）		
28 ～ 30 時間目	社会教育施設の計画（美術館）		
31 ～ 32 時間目	社会教育施設の計画（コミュニティセンター・公民館）		
33 ～ 34 時間目	医療施設・福祉施設の計画（高齢化社会と建築計画）		
35 ～ 37 時間目	医療施設・福祉施設の計画（病院）		
38 ～ 39 時間目	医療施設・福祉施設の計画（高齢者施設）		
40 ～ 41 時間目	商業施設の計画（規模計画と経済効果）		
42 ～ 44 時間目	商業施設の計画（事務所ビル）		
45 ～ 47 時間目	商業施設の計画（劇場・音楽ホール）		
48 ～ 49 時間目	商業施設の計画（百貨店・スーパーマーケット・駐車場）		
50 ～ 51 時間目	商業施設の計画（宿泊施設・ホテル）		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	初学者の建築講座 建築計画	出版社：市ヶ谷出版社
	教材	配布資料	著者：佐藤考一・五十嵐太郎
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 040201

授 業 計 画 (シラバス)

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	計画実践		
② 対象学科	工業専門課程 インテリアデザイン科	③ 履修学年	2
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	81
		⑥ 授業形態	演習
⑦ 担当教員(代表)	杉山 直樹	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>建築計画と建築製図の知識を活かし、より実践的な条件下で、住宅から各種建築物の具体的な間取りや外観等を多角的に検討して行く。実際のエスキース作業を通し、建物の計画立案における各段階に必要な知識と技術を習得させる。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>実戦的問題演習により、総合的に建築計画をまとめて行く。 1. エスキース段階における建物内外の立体的思考をする。 2. デザインのみにとられず、構造面にも充分配慮された計画の立案をする。 3. 木造・鉄筋コンクリート造・鉄骨造の各構造の特徴をふまえた計画を立案する。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 6 時間目	住宅様式の変遷と住宅平面の類型、住宅における各室の機能と配置・平面計画		
7 ～ 12 時間目	木造戸建て住宅の、配置・平面・立面・断面計画		
13 ～ 18 時間目	木造戸建て住宅の、基礎伏せ図・1階床伏せ図の作図法		
19 ～ 24 時間目	木造戸建て住宅の、2階床伏せ図・小屋伏せ図の作図法		
25 ～ 30 時間目	木造戸建て住宅各伏せ図の作図演習		
31 ～ 36 時間目	木造戸建て住宅の矩計図の作図法及び演習		
37 ～ 42 時間目	木造2階建て専用住宅の平面計画とエスキース演習		
43 ～ 48 時間目	木造2階建て店舗併用住宅の平面計画とエスキース演習		
49 ～ 54 時間目	鉄筋コンクリート造・鉄骨造の配置・平面・立面・断面計画		
55 ～ 60 時間目	鉄筋コンクリート造戸建て住宅の平面計画とエスキース演習		
61 ～ 66 時間目	鉄筋コンクリート造公共建築物等の平面計画とエスキース演習		
67 ～ 72 時間目	鉄骨造戸建て住宅の平面計画とエスキース演習		
73 ～ 81 時間目	鉄骨造公共建築物等の平面計画とエスキース演習		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	出版社：	
	教材	著 者：	
		配布資料	
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 040204

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	環境工学		
② 対象学科	工業専門課程 インテリアデザイン科	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	34
⑦ 担当教員(代表)	近藤 幹	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>健康で快適な室内環境を実現するための知識として、建築に求められる環境条件を物理量や感覚評価量を体系的にとらえて学び、それらを建築の設計・計画に応用し、利用できる能力の習得を目標とする。また、地球温暖化対策や資源の有効活用、廃棄物の再利用など環境に配慮した建築のあり方にも指針となるものとする。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>住環境の科学的基礎の学習。室内気候全般、空気環境、熱環境・光環境・音環境について人間との関わりを軸に学ぶ。また、人間の温熱感覚を表す指標やその測定方法、自然環境と建築物の基本的関係についても注目していく。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 4 時間目	太陽位置と日照		
5 ～ 6 時間目	日影・日射		
7 ～ 8 時間目	測光量と採光		
9 ～ 10 時間目	人工照明		
11 ～ 12 時間目	色彩の表し方と色彩計画		
13 ～ 14 時間目	空気汚染と必要換気量		
15 ～ 16 時間目	自然換気と機械換気		
17 ～ 18 時間目	伝熱の基本		
19 ～ 20 時間目	建物全体の熱特性		
21 ～ 22 時間目	湿り空気と空気線図		
23 ～ 24 時間目	結露		
25 ～ 26 時間目	温熱感覚指標		
27 ～ 28 時間目	気象と都市環境		
31 ～ 32 時間目	音の性質		
33 ～ 34 時間目	音響計画		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	初学者の建築講座 建築環境工学	出版社：市ヶ谷出版社
	教材		著者：倉渕 隆
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 040301

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築設備		
② 対象学科	工業専門課程 インテリアデザイン科	③ 履修学年	2
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	54
⑦ 担当教員(代表)	平内 謙介	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>建築設備の概要を理解させる。建築と設備の関連性について習得させ、建築技術者として、建築設備の知識を育成する。建築設備の用語・方式を理解させる。建築設備全般的な考え方を理解させる。建築技術者として、建築設備の知識を習得する。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>人間生活をより快適でより安全とするための具体的な各種設備（給水・排水・ガス設備・電気設備・空調設備・電気設備等）について、用語から各種方式までを理解し、建築設備への全体的な考え方と適切な方式の選択方法などを学習する。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 2 時間目	建築設備の分類・概論		
3 ～ 4 時間目	給排水衛生設備の概要（役割・構成等）		
5 ～ 10 時間目	給水設備（方式の種類と特徴・必要圧力・タンク設置規定・管材と施工方法等）		
11 ～ 14 時間目	給湯設備（方式の種類と特徴・給湯温度・管材と施工方法等）		
15 ～ 20 時間目	排水設備・通気設備（方式の種類と特徴・排水トラップ・管材と施工方法等）		
21 ～ 24 時間目	屋外排水設備（排水枘の種類・方式・施工法等）		
25 ～ 28 時間目	排水処理設備（排水処理方法・浄化槽の性能）		
29 ～ 30 時間目	空気調和設備の概要（役割・構成等）		
31 ～ 38 時間目	空気調和設備（室内環境基準・種類・特徴・空調負荷・空調機器等）		
39 ～ 42 時間目	換気設備（方式の種類と特徴・必要換気量の算出等）		
43 ～ 44 時間目	電気設備の概要（役割・構成等）		
45 ～ 46 時間目	受変電・幹線・動力設備		
47 ～ 48 時間目	照明・コンセント設備		
49 ～ 50 時間目	消火設備（方式の種類と特徴等）		
51 ～ 52 時間目	防災設備（自動火災報知設備）		
53 ～ 54 時間目	ガス設備（方式・種類・機器性能等）		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	初学者の建築講座 建築設備	出版社：市ヶ谷出版社
	教材		著者：大塚雅之
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 040401

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	構造力学		
② 対象学科	工業専門課程 インテリアデザイン科	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	68
⑦ 担当教員(代表)	小牧 友久	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>構造物に外力が作用した場合、構造物を安全かつ経済的に設計するための、構造計算の基礎となる一般原理を習得する。建築技術者として建築物の安全性に関わる非常に重要な建築構造の一分野であることを認識し、構造計画・計算のための基礎知識を習得する。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>力学の入門(力のモーメント・反力等)から、静定構造物に働く各種の荷重・応力等について理解し、構造物を構成する部材の大きさや断面の形状による力学的性質等についても学ぶ。さらには、静定構造物の解法から発展させ、不静定構造物について、より応力算定としては高度で複雑な計算知識と理論（固定モーメント法やD値法等）を習得する。崩壊荷重（耐力）を求める方法（仮想仕事法等）についても学ぶ。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 2 時間目	力および荷重の基礎		
3 ～ 4 時間目	力のモーメント		
5 ～ 6 時間目	力の合成と分解		
7 ～ 8 時間目	力の釣り合い		
9 ～ 12 時間目	反力の求め方		
13 ～ 16 時間目	単純梁の応力		
17 ～ 18 時間目	片持ち梁の応力		
19 ～ 22 時間目	単純梁系ラーメンの応力		
23 ～ 24 時間目	3ヒンジラーメンの解法		
25 ～ 42 時間目	トラスの解法（節点法・切断法）		
43 ～ 44 時間目	断面に関する数量（図心）		
45 ～ 47 時間目	断面に関する数量（断面2次モーメント・断面係数）		
48 ～ 50 時間目	軸応力度（ひずみ度・ヤング係数）・せん断応力度		
51 ～ 52 時間目	曲げ応力度		
53 ～ 54 時間目	許容応力度・許容曲げモーメント		
55 ～ 56 時間目	曲げ応力度と軸応力度の組み合わせ		
57 ～ 58 時間目	座屈		
59 ～ 60 時間目	たわみ		
61 ～ 68 時間目	不静定構造（不静定構造とは・不静定構造の解法）		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	基礎から学ぶ 建築構造設計 及び 配布資料	出版社：実教出版 著者：実教出版編修部
	教材		
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 040501

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築一般構造		
② 対象学科	工業専門課程 インテリアデザイン科	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	51
⑦ 担当教員(代表)	石黒 達哉	⑧ 実務経験	施工実務経験者
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
建築物の概要と構造の種類、構造方式の考え方について理解する。建築設計者・施工者としての必要な構造に関する技術・知識を養う。			
⑪ 授業の概要			
各種躯体（木造・鉄筋コンクリート造・鉄骨造・組積造・プレストレスコンクリート造等）の基本的な構法や、各部構法（基礎・屋根・壁・開口部・床・階段・天井・造作と納まり等）を学ぶ。そして、1つの建築物が建っていくまでの流れを理解したり、現存する建築物の構法についても理解を深める。			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 2 時間目	建物にはたらく力（荷重、外力）		
3 ～ 4 時間目	木構造（木材、木構造の特徴）		
5 ～ 8 時間目	木構造（在来工法の基礎、床下換気口）		
9 ～ 16 時間目	木構造（軸組、小屋組、床組）		
17 ～ 24 時間目	木構造（筋交い、壁、壁量計算）		
25 ～ 28 時間目	木構造（階段、継手・仕口、金物）		
29 ～ 30 時間目	木構造（枠組み壁工法）		
31 ～ 32 時間目	鉄筋コンクリート造（特徴、原理、構造形式）		
33 ～ 34 時間目	鉄筋コンクリート造（配筋計画）		
35 ～ 38 時間目	鉄筋コンクリート造（各部の構造）		
39 ～ 39 時間目	鉄筋コンクリート造（階段）		
40 ～ 40 時間目	鉄筋コンクリート造（壁式鉄筋コンクリート構造）		
41 ～ 42 時間目	鉄骨造（構造形式、接合）		
43 ～ 44 時間目	鉄骨造（部材の設計）		
45 ～ 49 時間目	鉄骨造（各部の構造）		
50 ～ 51 時間目	その他の構造（鉄骨鉄筋コンクリート構造、補強コンクリートブロック造）		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	図説 やさしい建築一般構造	出版社：学芸出版社
	教材		著者：今村仁美・田中美都
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 040601

授 業 計 画 (シラバス)

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築施工		
② 対象学科	工業専門課程 インテリアデザイン科	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	68
		⑥ 授業形態	講義
⑦ 担当教員(代表)	児玉 道子	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
建築生産をはじめとし、躯体工事、仕上げ工事等の各種工事から1つの現場の流れについて理解し、建築施工者としての必要な施工に関する技術・知識を養う。			
⑪ 授業の概要			
鉄筋コンクリート・鉄骨・木・土工事等の躯体工事の基本的な施工方法や左官・防水・内装等の仕上げ工事の施工方法の知識を学ぶ。そのほか工事の請負契約や請負制度の概略を学ぶ。			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 2 時間目	建築生産（設計と施工）		
3 ～ 12 時間目	施工計画（品質管理・材料管理・工程管理・安全管理・工程表の理解）		
13 ～ 18 時間目	仮設工事・準備工事（共通仮設工事・直接仮設工事・施工機械）		
19 ～ 22 時間目	土工事・地業・基礎工事		
23 ～ 30 時間目	躯体工事（鉄筋コンクリート工事）		
31 ～ 34 時間目	躯体工事（鉄骨造）		
35 ～ 38 時間目	躯体工事（木工事）		
39 ～ 42 時間目	仕上工事（屋根工事）		
43 ～ 48 時間目	仕上工事（防水工事）		
49 ～ 52 時間目	仕上工事（左官工事）		
53 ～ 56 時間目	仕上工事（タイル工事・石工事）		
57 ～ 58 時間目	仕上工事（建具工事・ガラス工事）		
59 ～ 62 時間目	仕上工事（内装工事）		
63 ～ 64 時間目	仕上工事（塗装工事）		
65 ～ 66 時間目	仕上工事（断熱工事）		
67 ～ 68 時間目	建物の引渡し		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	建築施工テキスト	出版社：井上書院
	教材	配布資料	著者：兼歳昌直
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 040801

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	施工管理		
② 対象学科	工業専門課程 インテリアデザイン科	③ 履修学年	2
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	34
⑦ 担当教員(代表)	伊丹 勤	⑧ 実務経験	施工実務経験者
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>施工管理に必要な建築学の知識と、建築実務上重要な施工計画・工程管理・品質管理・安全管理の諸事項を習得させる。実務に就いた際に現場施工監督者（管理者）としての必要な知識を備える。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>現場施工の工事完了までの諸事項を、安全管理・工程管理・品質管理面について検討し、実務設計図面を使用してスムーズに工事が進行するように具体的な施工計画書を作成する。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 2 時間目	施工管理の目的		
3 ～ 4 時間目	施工計画		
5 ～ 8 時間目	工程管理		
9 ～ 12 時間目	品質管理		
13 ～ 16 時間目	安全管理		
17 ～ 20 時間目	建設業法		
21 ～ 22 時間目	労働基準法		
23 ～ 26 時間目	労働安全衛生法		
27 ～ 28 時間目	契約約款・積算・測量		
29 ～ 34 時間目	仕上げ工事全般		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	建築施工テキスト	出版社：井上書院
	教材		著者：兼歳昌直
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 040804

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築法規		
② 対象学科	工業専門課程 インテリアデザイン科	③ 履修学年	2
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	54
⑦ 担当教員(代表)	川田 英男	⑧ 実務経験	
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>わが国における建築活動は、すべて法律を規範として営まれており、建築基準法は、構造・防火・避難・衛生等に関する技術的基準及び集団としての秩序を維持するための用途・密度・形態等に関する基準を規定するとともに、これらの内容を担保するための制度・手続き等についても規定している。この授業は建築基準法を中心に学ぶことにより建築関連業務に従事する者に必要な法律知識の習得と社会の変化に対応できる人材の養成を目標とする。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>建築基準法を理解する上で重要な用語の定義について図解等を交えてわかりやすく解説する。また、建築基準法及び建築基準法施行令を基本として、建築物自体の主要な技術基準、都市計画区域等における主要な建築制限、制度規定について、法の基因関係から逐条の解説を実際例と併せて解説すると共に法文内容の理解を深めるために演習を行う。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 2 時間目	建築法規の概要・建築基準法の概要、用語の定義		
3 ～ 4 時間目	建築に関する用語の定義		
5 ～ 6 時間目	面積、高さ等の算定		
7 ～ 8 時間目	建築基準法に関わる手続き		
9 ～ 10 時間目	居室の採光		
11 ～ 12 時間目	居室の換気、アスベスト規制、シックハウス		
13 ～ 14 時間目	居室の天井高・床高・階段の寸法等		
15 ～ 16 時間目	道路関係		
17 ～ 19 時間目	用途地域		
20 ～ 22 時間目	容積率		
23 ～ 25 時間目	建ぺい率		
26 ～ 28 時間目	高さ制限・日影規制		
29 ～ 31 時間目	防火・準防火地域の制限		
32 ～ 34 時間目	防火壁等・耐火・準耐火建築物		
35 ～ 37 時間目	内装制限		
38 ～ 40 時間目	防火区画		
41 ～ 43 時間目	避難施設		
44 ～ 47 時間目	構造強度		
48 ～ 54 時間目	建築基準法以外の建築関係規定		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	建築関係法令集 法令編	出版社：総合資格
	教材		著者：総合資格学院
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 040901

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	デジタルデザイン I		
② 対象学科	工業専門課程 インテリアデザイン科	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	51
⑦ 担当教員(代表)	井熊 里佳	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
依頼主に対し、建築図面をよりわかりやすく説明し、完成後のイメージを理解してもらうためのツールとして活用ができる知識と技術を習得する。イラストレーションソフト（Adobe Illustrator）、画像編集ソフト（Adobe Photoshop）を利用し、デザインプロセスに必要な能力を習得し、住宅規模クラスのプレゼンテーションができる力を身につける。			
⑪ 授業の概要			
図形の作図・レイアウト・文字組・写真の加工といったプレゼンテーションのツールとしての資料作成ができる基礎的な描画テクニックを身につける。住宅規模クラスのプレゼンテーションボードを作成する。			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 6 時間目	イラストレーター(基本操作、機能説明)		
7 ～ 15 時間目	イラストレーター(図形のトレース、ベジェ曲線)		
16 ～ 18 時間目	イラストレーター(ロゴ作成)		
19 ～ 24 時間目	イラストレーター(名刺作成)		
25 ～ 30 時間目	イラストレーター(レイアウト基礎)		
31 ～ 36 時間目	フォトショップ(基本操作、写真の加工)		
37 ～ 42 時間目	フォトショップ(手書き風パース作成)		
43 ～ 48 時間目	フォトショップ(手書きパースの加工)		
49 ～ 51 時間目	イラストレーター、フォトショップ(プレゼンテーションボード作成)		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	Illustrator 10年使える逆引き手帳	出版社：ソフトバンククリエイティブ 著者：高野雅弘
	教材	配布資料	
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 041008

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	デジタルデザインⅡ		
② 対象学科	工業専門課程 インテリアデザイン科	③ 履修学年	2
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	25.5
⑦ 担当教員(代表)	柿野 孝彰	⑧ 実務経験	
⑨ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
「デジタルデザインⅠ」の習得を元に、イラストレーションソフト（Adobe Illustrator）、画像編集ソフト（Adobe Photoshop）を駆使し、デザインプロセスに必要な高度な技術を習得し、公共・商業施設規模(中大規模)クラスのプレゼンテーションができる力を身につける。			
⑪ 授業の概要			
応用として、グラデーションを使った立体表現、マスク・複合パスでの切り抜き、アピアランスで見た目をコントロールなどの便利な機能を学びプレゼンテーションの幅を広げる。公共・商業施設規模(中大規模)クラスのプレゼンテーションボードを作成する。			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 3 時間目	イラストレーター図面着色		
4 ～ 9 時間目	平面図		
10 ～ 12 時間目	配置図		
13 ～ 15 時間目	展開図		
16 ～ 18 時間目	フォトショップCG加工		
19 ～ 21 時間目	素材		
22 ～ 24 時間目	点景		
24 ～ 25.5 時間目	陰影		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	Illustrator 10年使える逆引き手帳	出版社：ソフトバンククリエイティブ 著者：高野雅弘
	教材	配布資料	
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 041009

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	C G I		
② 対象学科	工業専門課程 インテリアデザイン科	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	51
⑦ 担当教員(代表)	柿野 孝彰	⑧ 実務経験	
⑨ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>施主・発注者・設計者のイメージを、適格に図面から読み取り、各種手法を使い、質の高いプレゼンテーション（CG パース）ができる能力を身につける。インテリア業界でシェアの高い2次元/3次元のアプリケーションソフト（V e c t o r W o r k s）を使用し、3次元での基礎的な立体表現を身に付ける。</p>			
⑪ 授業の概要			
基本操作を理解し、図面から家具や内装の作成を行なうことで、3次元でのモデリング作成技術を習得する。			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 3 時間目	基本操作		
4 ～ 9 時間目	椅子・ソファの作成		
10 ～ 12 時間目	テーブル・照明の作成		
13 ～ 18 時間目	家具一式の作成		
19 ～ 30 時間目	マンションのインテリアの作成		
31 ～ 33 時間目	マンションのインテリアパースの取り出し・加工		
34 ～ 49 時間目	店舗のインテリアの作成		
50 ～ 51 時間目	店舗のインテリアパースの取り出し・加工		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	出版社：	
	教材	配布資料	
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 041010

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築インテリアパース I		
② 対象学科	工業専門課程 インテリアデザイン科	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	51
⑦ 担当教員(代表)	平内 謙介	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
図学の学習により、様々な多角形、黄金矩形、円から発展した形を自由に作成することが出来る能力を身につける。これを元に透視図法を習得し、外観・内観の線描と着色までができる能力を養う。			
⑪ 授業の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・平行透視、成角透視の図法を理解し、図面から透視図を描く。 ・マーカー、パステル、色鉛筆を駆使して透視図の着色をする。 			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 3 時間目	ガイダンス		
4 ～ 6 時間目	色見本制作		
7 ～ 9 時間目	グリッドパース1消点（リビング）作図		
10 ～ 12 時間目	グリッドパース1消点（リビング）作図		
13 ～ 15 時間目	グリッドパース1消点（リビング）作図		
16 ～ 18 時間目	グリッドパース1消点（リビング）着色		
19 ～ 21 時間目	グリッドパース1消点（リビング）着色		
22 ～ 24 時間目	グリッドパース1消点（リビング）着色		
25 ～ 27 時間目	グリッドパース1消点（リビングダイニング）作図		
28 ～ 30 時間目	グリッドパース1消点（リビングダイニング）作図		
31 ～ 33 時間目	グリッドパース1消点（リビングダイニング）作図		
34 ～ 36 時間目	グリッドパース1消点（リビングダイニング）着色		
37 ～ 39 時間目	グリッドパース1消点（リビングダイニング）着色		
40 ～ 42 時間目	グリッドパース1消点（リビングダイニング）着色		
43 ～ 45 時間目	側線法1消点による作図練習		
46 ～ 48 時間目	側線法2消点による作図練習		
49 ～ 51 時間目	側線法2消点（住宅）作図		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	出版社：	
	教材	著者：	
		配布資料	
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 041014

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築インテリアパースⅡ		
② 対象学科	工業専門課程 インテリアデザイン科	③ 履修学年	2
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	40.5
⑦ 担当教員(代表)	平内 謙介	⑥ 授業形態	実習
⑧ 実務経験	設計実務経験者		
⑨ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
「建築インテリアパースⅠ」の習得を元に、より高度なプレゼンテーションに対応できるパースの着彩法を身につける。陰影の表現やハイライトの表現、白く残す（塗らない）部分の大切さ等を理解する。			
⑪ 授業の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・平行透視、成角透視の図法を理解し、図面から透視図を描く。 ・マーカー、パステル、色鉛筆を駆使して透視図の着彩をする。 			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 3 時間目	側線法2消点（住宅）着色		
4 ～ 6 時間目	側線法2消点（住宅）着色		
7 ～ 9 時間目	側線法2消点（住宅）着色		
10 ～ 12 時間目	グリットパース2消点（店舗）作図		
13 ～ 15 時間目	グリットパース2消点（店舗）作図		
16 ～ 18 時間目	グリットパース2消点（店舗）着色		
19 ～ 21 時間目	グリットパース2消点（店舗）着色		
22 ～ 24 時間目	グリットパース2消点（店舗）着色		
25 ～ 27 時間目	グリットパース1消点（店舗）作図		
28 ～ 30 時間目	グリットパース1消点（店舗）作図		
31 ～ 33 時間目	グリットパース1消点（店舗）着色		
34 ～ 36 時間目	グリットパース1消点（店舗）着色		
37 ～ 40.5 時間目	グリットパース1消点（店舗）着色		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	出版社：	
	教材	著者：	
		配布資料	
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 041015

授 業 計 画 (シラバス)

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築総合演習 (実践)		
② 対象学科	工業専門課程 インテリアデザイン科	③ 履修学年	2
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	162
⑦ 担当教員(代表)	柿野 孝彰	⑧ 実務経験	
⑨ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
1年次習得した各科目内容を実務的視点から総合的にとらえ、実習作業を通して建築全般の理解を深める。さらに選択した分野に関して自ら調査研究・作品制作する機会を得ることで、専攻分野に特化した実務能力を高める			
⑪ 授業の概要			
<p>A：建築設計（店舗設計除く）、店舗設計、建築CGパース、建築パース、建築模型等の中から選択し、作品を制作する。</p> <p>B：建築計画、構造、施工、リフォーム等の中から各自で課題を掲げ、調査・研究をしその成果をまとめる。</p> <p>C：建設業全体を把握し、工事管理の手法・躯体工事の方法・手順を現場実習を通じ、その管理手法を習得する。また、安全・工程・品質のマネージメント業務の基本的な手段、実行予算計画を立案し工事現場の運営方法を習得する。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
～	時間目	Aコース	
1	～ 6	時間目 各種概論	
7	～ 24	時間目 課題内容の検討と課題提起	
25	～ 42	時間目 調査研究	
43	～ 60	時間目 企画検討	
61	～ 138	時間目 作品制作	
139	～ 162	時間目 作品チェック・手直し	
～	時間目	Bコース	
1	～ 6	時間目 各種概論	
7	～ 24	時間目 課題内容の検討と課題提起	
25	～ 60	時間目 資料収集・調査	
61	～ 120	時間目 資料収集・調査結果のまとめ	
121	～ 138	時間目 現状の課題と改善提案資料の作成	
139	～ 162	時間目 まとめと考察のチェック・手直し	
～	時間目	Cコース	
1	～ 20	時間目 建設業と建設業の会社の仕組み	
21	～ 45	時間目 建設業法と労働安全衛生法・同規則について	
46	～ 65	時間目 安全管理と工程管理について	
66	～ 82	時間目 品質管理と鉄筋工事管理方法	
83	～ 85	時間目 実習 木造基礎・躯体組み立て	
86	～ 97	時間目 実習 鉄筋組み立て	
98	～ 101	時間目 実習 コンクリート型枠組み立て	
102	～ 149	時間目 総合仮設計画と各種工事の仮設計画について	
150	～ 162	時間目 実行予算管理計画概要について	
⑬ その他		教科書	出版社：
		教材	著 者：
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード
			041026

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	卒業制作・演習		
② 対象学科	工業専門課程 インテリアデザイン科	③ 履修学年	2
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	150
⑦ 担当教員(代表)	柿野 孝彰	⑧ 実務経験	
⑨ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>2年間で習得した建築の知識と技術の集大成として、「建築コース演習」をさらに発展的にスケールアップした作品制作や研究をする。</p> <p>Aコースは、個々の自由なテーマで実用的で魅力的な創造作品を完成させる。Bコースは、2級建築士取得を見据えた総合的な復習と、個々の自由なテーマで課題提示を行い、それについて調査・研究の成果をまとめる。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>A：建築設計（店舗設計除く）、店舗設計、建築CGパース、建築パース、建築模型等の中から希望の分野を選択し、担当教官のもと作品の制作をし卒業制作展を開催し出品する。</p> <p>B：建築施工管理、リフォームなどから各自のテーマを掲げ、担当教官のもと調査・研究を行いその成果を発表する。また並行して2級建築士試験対策の学習も行う。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
～	時間目	Aコース	
1	～ 6 時間目	全体説明・資料収集	
7	～ 54 時間目	作品企画	
55	～ 108 時間目	作品制作	
109	～ 138 時間目	作品チェック・手直し指導	
139	～ 150 時間目	展示用パネル等の作成・発表会	
～	時間目	Bコース	
1	～ 6 時間目	全体説明・資料収集	
7	～ 12 時間目	建築士試験総合対策（計画）	
13	～ 36 時間目	研究テーマの企画	
37	～ 42 時間目	建築士試験総合対策（法規）	
43	～ 102 時間目	調査・研究	
151	～ 108 時間目	建築士試験総合対策（構造）	
109	～ 120 時間目	研究成果のまとめ・チェック・手直し指導	
121	～ 126 時間目	建築士試験総合対策（施工）	
127	～ 138 時間目	建築士試験総合対策（設計製図）	
139	～ 150 時間目	発表用パネル等の作成	
～	時間目		
⑬ その他	教科書	出版社：	
	教材	著者：	
		配布資料	
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 041027

■ 建築ライセンス科 教科目〔科目担当者〕一覧

設計実務経験者授業	777.5 時間	910.0 時間
施工実務経験者授業	132.5 時間	
授業総時間		910 時間

科 目	学年	必選別	担 当 者	設計実務 経験者	施工実務 経験者	時間数
2 級建築士・計画	1	必修	鬼頭 和弘	○		82.5
2 級建築士・法規	1	必修	遠藤 忠俊	○		82.5
2 級建築士・構造	1	必修	鈴木 樹	○		82.5
2 級建築士・施工	1	必修	石橋 敦士		○	82.5
2 級建築士・製図	1	必修	遠藤 忠俊	○		330
確認申請	1	必修	蜂須賀 亮子	○		50
1 級製図	1	必修	遠藤 忠俊	○		50
総合演習（1 級学科）	1	選必	峰松 将馬	○		50
総合演習（生産・積算・施工図）	1	選必	徳山 竜		○	50
総合演習（設計・都市計画）	1	選必	遠藤 忠俊	○		50

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	2級建築士・計画		
② 対象学科	工業専門課程 建築ライセンス科	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	82.5
⑦ 担当教員(代表)	鬼頭 和弘	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>二級建築士試験の学科試験の合格を目指し、「学科Ⅰ」分野の学習を行う。環境工学、建築計画、建築設備の3分野について過去の出題内容を踏まえ、基礎的な項目については完全習得を目指す。また、基礎的な内容に留まらず応用力をも養っていくことで、建築士として必要な技術と知識を身につける。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>過去問題の徹底分析を行い、関連することがらや応用的内容までを幅広く学習する。また、各單元ごとに学習達成度を小テスト等を実施し確認する。各自の学習達成度を把握することで、以後の授業の組立てを検討しながら授業をすすめていく。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 3 時間目	日本建築史、西洋建築史、近代・現代建築史		
4 ～ 7 時間目	環境工学の用語・単位と環境問題		
8 ～ 11 時間目	空気汚染		
12 ～ 15 時間目	音湿度		
16 ～ 19 時間目	換気・通風		
20 ～ 23 時間目	伝熱、結露		
24 ～ 27 時間目	日照・日射・日影・採光		
28 ～ 31 時間目	音響・吸音・遮音・残響		
32 ～ 35 時間目	光・色彩		
36 ～ 39 時間目	専用住宅		
40 ～ 43 時間目	集合住宅・住宅地の計画		
44 ～ 47 時間目	商業建築・事務所建築		
48 ～ 51 時間目	公共建築		
52 ～ 55 時間目	各部計画、住宅生産		
56 ～ 59 時間目	設備用語、空調設備		
60 ～ 63 時間目	冷暖房設備		
64 ～ 67 時間目	給水設備・排水設備		
68 ～ 71 時間目	電気設備、照明設備		
72 ～ 75 時間目	防災・消防設備		
76 ～ 79 時間目	省エネルギー設備		
80 ～ 82.5 時間目	搬送・ガス設備		
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	スタンダード二級建築士	出版社：学芸出版社
	教材		著者：建築資格試験研究会
備考	⑮については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 050101

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	2級建築士・法規		
② 対象学科	工業専門課程 建築ライセンス科	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	82.5
⑦ 担当教員(代表)	遠藤 忠俊	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>二級建築士試験の学科試験の合格を目指し、「学科Ⅱ」分野の学習を行う。 過去の出題内容を踏まえ、基礎的な項目については完全習得を目指す。また、基礎的な内容に留まらず応用力をも養っていくことで、建築士として必要な技術と知識を身につける。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>過去問題の徹底分析を行い、関連することがらや応用的内容までを幅広く学習する。また、各單元ごとに学習達成度を小テスト等を実施し確認する。各自の学習達成度を把握することで、以後の授業の組立てを検討しながら授業をすすめていく。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 3 時間目	用語の定義		
4 ～ 7 時間目	面積・高さ等の算定方法		
8 ～ 11 時間目	建築基準法の手続き等		
12 ～ 15 時間目	換気・採光・シックハウス対策		
16 ～ 19 時間目	一般構造		
20 ～ 23 時間目	防火規制		
24 ～ 27 時間目	内装制限		
28 ～ 31 時間目	避難施設		
32 ～ 35 時間目	構造計算		
36 ～ 39 時間目	鉄筋コンクリート造		
40 ～ 43 時間目	木造・その他の構造		
44 ～ 47 時間目	道路		
48 ～ 51 時間目	用途地域		
52 ～ 55 時間目	容積率		
56 ～ 59 時間目	建蔽率		
60 ～ 63 時間目	高さ制限		
64 ～ 67 時間目	防火地域・準防火地域		
68 ～ 71 時間目	建築士法		
72 ～ 75 時間目	建設業法・宅地建物取引業法		
76 ～ 79 時間目	バリアフリー法・耐震改修促進法		
80 ～ 82.5 時間目	都市計画法・消防法		
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	スタンダード二級建築士	出版社：学芸出版社
	教材		著者：建築資格試験研究会
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 050102

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	2級建築士・構造		
② 対象学科	工業専門課程 建築ライセンス科	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	82.5
⑦ 担当教員(代表)	鈴木 樹	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>二級建築士試験の学科試験の合格を目指し、「学科Ⅲ」分野の学習を行う。構造力学・構造計画・一般構造・構造材料の4分野について過去の出題内容を踏まえ、基礎的な項目については完全習得を目指す。また、基礎的な内容に留まらず応用力をも養っていくことで、建築士として必要な技術と知識を身につける。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>過去問題の徹底分析を行い、関連することがらや応用的内容までを幅広く学習する。また、各單元ごとに学習達成度を小テスト等を実施し確認する。各自の学習達成度を把握することで、以後の授業の組立てを検討しながら授業をすすめていく。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 3 時間目	用語と単位・断面の性質		
4 ～ 7 時間目	応力度・許容応力度		
8 ～ 11 時間目	力のモーメント・釣合・合成と分解		
12 ～ 15 時間目	反力		
16 ～ 19 時間目	静定梁		
20 ～ 23 時間目	静定ラーメン		
24 ～ 27 時間目	静定トラスの応力（節点法）		
28 ～ 31 時間目	静定トラスの応力（切断法）		
32 ～ 35 時間目	座屈（座屈長さ・座屈荷重）		
36 ～ 39 時間目	荷重及び外力		
40 ～ 43 時間目	地盤及び基礎		
44 ～ 47 時間目	木構造		
48 ～ 51 時間目	補強コンクリートブロック造・壁式鉄筋コンクリート造		
52 ～ 55 時間目	鉄筋コンクリート構造		
56 ～ 59 時間目	鉄骨構造		
60 ～ 63 時間目	構造計画		
64 ～ 67 時間目	構造材料（木材）		
68 ～ 71 時間目	構造材料（コンクリート材料強度・調合）		
72 ～ 75 時間目	構造材料（鋼材・金属材料）		
76 ～ 79 時間目	その他の各種材料		
80 ～ 82.5 時間目	建築材料（用途・全般）		
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	スタンダード二級建築士	出版社：学芸出版社
	教材		著者：建築資格試験研究会
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 050103

■ 建築ライセンス本科 教科目〔科目担当者〕一覧

設計実務経験者授業	1445.5 時間	1634.0 時間
施工実務経験者授業	188.5 時間	
授業総時間	1746 時間	

科 目	学年	必選別	担 当 者	設計実務 経験者	施工実務 経験者	時間数
2級建築士・計画	1	必修	鬼頭 和弘	○		82.5
2級建築士・法規	1	必修	遠藤 忠俊	○		82.5
2級建築士・構造	1	必修	鈴木 樹	○		82.5
2級建築士・施工	1	必修	石橋 敦士		○	82.5
2級建築士・製図	1	必修	遠藤 忠俊	○		330
1・2級建築士演習	2	必修	鈴木 樹	○		51
各種資格演習	2	必修	鈴木 樹	○		102
建築造形A	1	必修	鈴木 樹	○		30
建築造形B	1	必修	鬼頭 和弘	○		20
建築造形C	2	必修	牧 秀明	○		27
建築計画学Ⅰ	1	必修	児玉 道子	○		20
建築計画学Ⅱ	2	必修	児玉 道子	○		16
建築構造学Ⅰ演習	1	必修	石黒 達哉		○	20
建築環境工学	1	必修	岡戸 良介	○		20
構造力学Ⅰ演習	1	必修	森 登	○		20
建築材料学	1	必修	長島 建雄		○	20
設備計画学	2	必修	荒居 秀征		○	16
建築史	1	必修	澤田 多喜二			20
建築史演習	2	必修	澤田 多喜二			18
建築施工学	2	必修	長島 建雄		○	16
都市計画学	1	必修	吉岡 竜巳			20
建築法規	2	必修	川田 英男			16
建築デザイン論	1	必修	弓場 明彦			20
CADⅠ	1	必修	鬼頭 和弘	○		30
CADⅡ	2	必修	鈴木 樹	○		30
建築設計Ⅰ－a	1	必修	鬼頭 和弘	○		30
建築設計Ⅱ－a	2	必修	鈴木 樹	○		30
建築設計Ⅲ－a	2	必修	鈴木 樹	○		30
測量学	2	必修	岩雲 康弘		○	16
地球環境と建築	2	必修	荒居 秀征		○	18
福祉と建築	1	必修	児玉 道子	○		20
防災と建築	1	必修	鈴木 樹	○		20
景観論	2	必修	吉岡 竜巳			18
建築技術史	2	必修	近藤 幹	○		18
卒業研究Ⅰ	2	必修	鈴木 樹	○		324

科 目	学年	必選別	担 当 者	設計実務 経験者	施工実務 経験者	時間数
卒業研究Ⅱ	2	必修	鈴木 樹	○		30

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	2級建築士・計画		
② 対象学科	工業専門課程 建築ライセンス本科	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	82.5
⑦ 担当教員(代表)	鬼頭 和弘	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>二級建築士試験の学科試験の合格を目指し、「学科Ⅰ」分野の学習を行う。環境工学、建築計画、建築設備の3分野について過去の出題内容を踏まえ、基礎的な項目については完全習得を目指す。また、基礎的な内容に留まらず応用力を養っていくことで、建築士として必要な技術と知識を身につける。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>過去問題の徹底分析を行い、関連することがらや応用的内容までを幅広く学習する。また、各單元ごとに学習達成度を小テスト等を実施し確認する。各自の学習達成度を把握することで、以後の授業の組立てを検討しながら授業をすすめていく。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 3 時間目	日本建築史、西洋建築史、近代・現代建築史		
4 ～ 7 時間目	環境工学の用語・単位と環境問題		
8 ～ 11 時間目	空気汚染		
12 ～ 15 時間目	音湿度		
16 ～ 19 時間目	換気・通風		
20 ～ 23 時間目	伝熱、結露		
24 ～ 27 時間目	日照・日射・日影・採光		
28 ～ 31 時間目	音響・吸音・遮音・残響		
32 ～ 35 時間目	光・色彩		
36 ～ 39 時間目	専用住宅		
40 ～ 43 時間目	集合住宅・住宅地の計画		
44 ～ 47 時間目	商業建築・事務所建築		
48 ～ 51 時間目	公共建築		
52 ～ 55 時間目	各部計画、住宅生産		
56 ～ 59 時間目	設備用語、空調設備		
60 ～ 63 時間目	冷暖房設備		
64 ～ 67 時間目	給水設備・排水設備		
68 ～ 71 時間目	電気設備、照明設備		
72 ～ 75 時間目	防災・消防設備		
76 ～ 79 時間目	省エネルギー設備		
80 ～ 82.5 時間目	搬送・ガス設備		
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	スタンダード二級建築士	出版社：学芸出版社
	教材		著者：建築資格試験研究会
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 060101

授 業 計 画 (シラバス)

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	2級建築士・法規		
② 対象学科	工業専門課程 建築ライセンス本科	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	82.5
⑦ 担当教員(代表)	遠藤 忠俊	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>二級建築士試験の学科試験の合格を目指し、「学科Ⅱ」分野の学習を行う。 過去の出題内容を踏まえ、基礎的な項目については完全習得を目指す。また、基礎的な内容に留まらず応用力をも養っていくことで、建築士として必要な技術と知識を身につける。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>過去問題の徹底分析を行い、関連することがらや応用的内容までを幅広く学習する。また、各單元ごとに学習達成度を小テスト等を実施し確認する。各自の学習達成度を把握することで、以後の授業の組立てを検討しながら授業をすすめていく。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 3 時間目	用語の定義		
4 ～ 7 時間目	面積・高さ等の算定方法		
8 ～ 11 時間目	建築基準法の手続き等		
12 ～ 15 時間目	換気・採光・シックハウス対策		
16 ～ 19 時間目	一般構造		
20 ～ 23 時間目	防火規制		
24 ～ 27 時間目	内装制限		
28 ～ 31 時間目	避難施設		
32 ～ 35 時間目	構造計算		
36 ～ 39 時間目	鉄筋コンクリート造		
40 ～ 43 時間目	木造・その他の構造		
44 ～ 47 時間目	道路		
48 ～ 51 時間目	用途地域		
52 ～ 55 時間目	容積率		
56 ～ 59 時間目	建蔽率		
60 ～ 63 時間目	高さ制限		
64 ～ 67 時間目	防火地域・準防火地域		
68 ～ 71 時間目	建築士法		
72 ～ 75 時間目	建設業法・宅地建物取引業法		
76 ～ 79 時間目	バリアフリー法・耐震改修促進法		
80 ～ 82.5 時間目	都市計画法・消防法		
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	スタンダード二級建築士	出版社：学芸出版社
	教材		著 者：建築資格試験研究会
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 060102

授 業 計 画 (シラバス)

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	2級建築士・構造		
② 対象学科	工業専門課程 建築ライセンス本科	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	82.5
⑦ 担当教員(代表)	鈴木 樹	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>二級建築士試験の学科試験の合格を目指し、「学科Ⅲ」分野の学習を行う。構造力学・構造計画・一般構造・構造材料の4分野について過去の出題内容を踏まえ、基礎的な項目については完全習得を目指す。また、基礎的な内容に留まらず応用力をも養っていくことで、建築士として必要な技術と知識を身につける。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>過去問題の徹底分析を行い、関連することがらや応用的内容までを幅広く学習する。また、各單元ごとに学習達成度を小テスト等を実施し確認する。各自の学習達成度を把握することで、以後の授業の組立てを検討しながら授業をすすめていく。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 3 時間目	用語と単位・断面の性質		
4 ～ 7 時間目	応力度・許容応力度		
8 ～ 11 時間目	力のモーメント・釣合・合成と分解		
12 ～ 15 時間目	反力		
16 ～ 19 時間目	静定梁		
20 ～ 23 時間目	静定ラーメン		
24 ～ 27 時間目	静定トラスの応力(節点法)		
28 ～ 31 時間目	静定トラスの応力(切断法)		
32 ～ 35 時間目	座屈(座屈長さ・座屈荷重)		
36 ～ 39 時間目	荷重及び外力		
40 ～ 43 時間目	地盤及び基礎		
44 ～ 47 時間目	木構造		
48 ～ 51 時間目	補強コンクリートブロック造・壁式鉄筋コンクリート造		
52 ～ 55 時間目	鉄筋コンクリート構造		
56 ～ 59 時間目	鉄骨構造		
60 ～ 63 時間目	構造計画		
64 ～ 67 時間目	構造材料(木材)		
68 ～ 71 時間目	構造材料(コンクリート材料強度・調合)		
72 ～ 75 時間目	構造材料(鋼材・金属材料)		
76 ～ 79 時間目	その他の各種材料		
80 ～ 82.5 時間目	建築材料(用途・全般)		
～ 時間目			
～ 時間目			
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	スタンダード二級建築士	出版社：学芸出版社
	教材		著者：建築資格試験研究会
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード
			060103

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築計画学 I		
② 対象学科	工業専門課程 建築ライセンス本科	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	20
⑦ 担当教員(代表)	児玉 道子	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	試験を50点満点、レポートを50点満点として、各60%以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>建築を計画する際には、快適性、安全性、経済性、機能性、意匠性、依頼者からの要求、法的条件、地理的条件などを多くの事柄を考えなければならない。それら一つ一つを適切に把握し、総合的に計画（プランニング）する。ここでは最も身近な「住宅」を対象とし、そのプランニング手法、空間デザイン手法、建築計画の基本的な方法論を習得する。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>建築計画の基本的な内容から「住宅」に関わる内容を講義し、各自がテキスト中の戸建て住宅及び集合住宅からそれぞれを1つ取り上げ、レポートを作成する。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～	1 時間目	建築の始まりから解体・廃業まで	
2 ～	2 時間目	建築に携わる人と組織	
3 ～	3 時間目	計画と設計	
4 ～	4 時間目	風土と建築	
5 ～	5 時間目	文化と建築	
6 ～	6 時間目	社会と建築	
7 ～	7 時間目	健康と建築	
8 ～	8 時間目	空間と知覚	
9 ～	9 時間目	空間と人間の行動	
10 ～	10 時間目	利用の計画	
11 ～	11 時間目	成長と変化の計画	
12 ～	12 時間目	寸法の計画	
13 ～	13 時間目	形の比例と寸法のシステム	
14 ～	14 時間目	建築物における事故と安全計画	
15 ～	15 時間目	行為と家具	
16 ～	16 時間目	デザインすることの意味	
17 ～	17 時間目	設計方法論	
18 ～	18 時間目	住居系（住宅、集合住宅）	
19 ～	20 時間目	各自によるレポート作成	
	～ 時間目		
⑬ その他	教科書	建築計画を学ぶ	出版社：理工図書
	教材		著者：建築計画教材研究会
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 060404

授 業 計 画 (シラバス)

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築設計Ⅱ－a		
② 対象学科	工業専門課程 建築ライセンス本科	③ 履修学年	2
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	30
⑦ 担当教員(代表)	鈴木 樹	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
住宅以外の各種建築の計画と設計を通して、公共性を持つ施設の建築計画についての基礎を学ぶ。この課題では、企画の立案住宅以外の各種建築の計画と設計を通して、公共性を持つ施設の建築計画についての基礎を学ぶ。この課題では、企画の立案プレゼンテーションの方法を身につける。			
⑪ 授業の概要			
商業施設、街かどのギャラリーなど、イメージしやすい規模と用途を持ち、地域に開かれた機能を持つ施設について、コンセプト作りから始め、模型作成とエスキスを行い、具体的な空間デザインを進める。各個人で図面や模型をまとめ、最終日に発表を行い、講評を受ける。			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 10 時間目	課題説明。商業施設など、地域に開かれた機能を持つ施設の設計		
11 ～ 20 時間目	模型の作成とエスキスをしながら具体的な空間デザインを進める		
21 ～ 30 時間目	図面と模型をまとめて個人発表		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	コンパクト建築設計資料集成 第3版	出版社：丸善出版
	教材		著 者：日本建築学会編
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 060420

■ 土木工学科 教科目〔科目担当者〕一覧

測量実務経験者授業	324 時間	1364.0 時間
施工実務経験者授業	1040 時間	
授業総時間		2390 時間

科 目	学年	必選別	担 当 者	測量実務 経験者	施工実務 経験者	時間数
一般教養	1	必修	桑原 廣志			40
数学	1	必修	鈴木 将仁			90
測量Ⅰ	1	必修	成田 節雄			94
測量Ⅱ	1	必修	鈴木 将仁			94
測量学演習	1	必修	鈴木 将仁			66
測量学演習	2	必修	桑野 雅裕			30
環境学概論	2	必修	梅田 忠			18
土木材料学	1	必修	杉浦 孝文	○		38
土木施工学	1	必修	近藤 誠		○	76
土木施工学	2	必修	田口 朗		○	106
VE	2	必修	川上 雄史	○		18
構造力学	1	必修	鈴木 将仁			56
構造力学	2	必修	鈴木 将仁			18
土質工学	1	必修	梅田 忠			76
水理学	1	必修	梅田 忠			38
I S O	1	必修	成田 節雄			36
経理・積算	1	必修	鈴木 将仁			34
プレゼンテーション	2	必修	臼井 あゆみ			70
鉄筋コンクリート工学	2	必修	宮口 直人	○		22
建設機械工学	1	必修	田口 朗		○	36
土木法規	2	必修	早川 真司		○	36
橋梁工学	2	必修	高井 勝由		○	22
環境交通工学	2	必修	野村 種明			22
環境河海工学	2	必修	田口 朗		○	36
都市計画	2	必修	梅田 忠			11
工事管理	2	必修	堀場 敏光		○	80
情報処理・演習	1	必修	中村 央基		○	76
情報処理・演習	2	必修	中村 央基		○	36
C A L S / E C	2	必修	桑野 雅裕			18
建設演習	2	必修	中村 央基		○	210
建築・電気概論	2	必修	田口 朗		○	22
建築設備	2	必修	荒居 秀征		○	18
衛生工学	1	必修	所 和久		○	40
衛生工学	2	必修	所 和久		○	18
実験	1	必修	中村 央基		○	76

科 目	学年	必選別	担 当 者	測量実務 経験者	施工実務 経験者	時間数
実験	2	必修	水谷 文一	○		58
実習	1	必修	中村 央基		○	76
実習	2	必修	水谷 文一	○		58
製図・設計・CAD	1	必修	中村 央基		○	76
製図・設計・CAD	2	必修	水谷 文一	○		130
企業実習	2	必修	桑野 雅裕			140
ホームルーム	1	必修	鈴木 将仁			38
ホームルーム	2	必修	桑野 雅裕			37

授 業 計 画 (シラバス)

【2021～2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	数学		
② 対象学科	工業専門課程 土木工学科	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	90
⑦ 担当教員(代表)	鈴木 将仁	⑧ 実務経験	
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
土木・測量の数学では、あらゆる事象がすべて既成公式化されたり、またはそれに近い形で固定化されている。よって、あくまでも、じっくり自分の中で熟成された計算能力のみが必要である。ここで学ぶ数学において、自分の技術を支えとなるように基本的数学から応用まで理解させる。			
⑪ 授業の概要			
関数とグラフ、指数と対数、三角関数、ベクトル、微分法、積分法、行列について修得する。			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 5 時間目	関数と変数・一次関数とグラフ		
6 ～ 15 時間目	せん断力、モーメント		
16 ～ 20 時間目	連立一次方程式		
21 ～ 25 時間目	2次関数のグラフ		
26 ～ 30 時間目	グラフと方程式		
31 ～ 35 時間目	指数、対数・常用対数		
36 ～ 40 時間目	三角関数		
41 ～ 45 時間目	ベクトル		
46 ～ 50 時間目	導関数		
51 ～ 55 時間目	高次導関数		
56 ～ 60 時間目	微分の応用、偏微分		
61 ～ 65 時間目	積分、不定積分		
66 ～ 70 時間目	置換積分法、部分積分法		
71 ～ 75 時間目	定積分		
76 ～ 82 時間目	行列		
83 ～ 90 時間目	測量・土木施工関連応用計算		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	工業数学	出版社：東工専
	教材	配布資料	著者：小川明治 他
備考			科目コード 10002

授業計画（シラバス）

【2021～2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	測量Ⅱ		
② 対象学科	工業専門課程 土木工学科	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	94
⑦ 担当教員(代表)	鈴木 将仁	⑧ 実務経験	
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
地点位置決定の後に続く地形図作成までの流れを把握した後、路線測量、河川測量、面積体積計算方法を理解させる。特に路線測量については中心線測量、縦断面測量、横断面測量、土量計算、それぞれの繋がりについて理解させる。			
⑪ 授業の概要			
地形測量・写真測量・地図編集等の測図分野と路線測量・河川測量・面積体積計算等応用測量分野について修得する。			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 6 時間目	地形測量概論		
7 ～ 12 時間目	T S 地形測量		
13 ～ 18 時間目	写真測量概説		
19 ～ 24 時間目	空中写真の撮影法・空中写真の判読		
25 ～ 30 時間目	空中写真の実体視・実体図化機による測定		
31 ～ 36 時間目	航空写真測量の計画とその問題点		
37 ～ 42 時間目	航空写真による地図作成地図編集作業		
43 ～ 48 時間目	編集（地形図原図）		
49 ～ 54 時間目	U T M 図法と平面直角座標系		
55 ～ 60 時間目	路線測量の概要		
61 ～ 66 時間目	単曲線の設置・クロソイド曲線の設置		
67 ～ 72 時間目	縦断測量・横断測量・座標の逆計算		
73 ～ 78 時間目	面積計算・体積計算（土量計算）		
79 ～ 84 時間目	河川測量の概要		
85 ～ 90 時間目	深浅測量・流速の観測		
91 ～ 94 時間目	流量計算測量士補演習		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	鉄則！測量士補合格ノート	出版社：東京法経学院
	教材	配布資料	著者：
備考			科目コード 10047

授 業 計 画 (シラバス)

【2021～2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	情報処理・演習		
② 対象学科	工業専門課程 土木工学科	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	76
⑦ 担当教員(代表)	中村 央基	⑥ 授業形態	演習
⑧ 実務経験	施工実務経験者		
⑨ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
ワープロ、表計算等のパソコンのリテラシーの習得を目指す。ブラウザや電子メールの使い方、インターネット等の知識をも修得し、土木技術者として業務に必要なパソコン操作を総括的に行う必要性を理解させる。			
⑪ 授業の概要			
コンピュータシステム、アプリケーションソフトの基礎と活用などコンピュータの活用能力について修得する。			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 6 時間目	概論		
7 ～ 12 時間目	ハードウェア (パソコン)		
13 ～ 18 時間目	ソフトウェア (OS)		
19 ～ 24 時間目	データ (データベース)		
25 ～ 30 時間目	Word 操作方法 (基礎編)		
31 ～ 36 時間目	Word 操作方法 (応用編)		
37 ～ 42 時間目	Excel 操作方法 (基礎編)		
43 ～ 48 時間目	Excel 操作方法 (基礎編 2)		
49 ～ 54 時間目	Excel 操作方法 (応用編)		
55 ～ 60 時間目	測量計算 (基礎編)		
61 ～ 66 時間目	測量計算 (応用編)		
67 ～ 72 時間目	土木への活用		
73 ～ 76 時間目	まとめ		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	30時間でマスター office2013	出版社：実教出版
	教材	配布資料	著者：
備考			科目コード 10031

授 業 計 画 (シラバス)

【2021～2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築・電気概論		
② 対象学科	工業専門課程 土木工学科	③ 履修学年	2
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	22
⑦ 担当教員(代表)	田口 朗	⑥ 授業形態	講義
⑧ 実務経験	施工実務経験者		
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
電気の基礎知識、新エネルギー発電、照明設計、受変電設備、自動火災報知設備を代表とした防災設備、弱電通信と雷保護技術、これら設備間を接続するケーブル種類と使い分けなど、電気設備設計業務に必要な知識と技術の概要を理解させる。			
⑪ 授業の概要			
建築と電気等の概要について、土木施工管理技士の資格取得と、現場における土木施工管理業務に必要な基本的事項について修得する。			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 2 時間目	建築総論・建築計画		
3 ～ 4 時間目	建築構造・建築施工		
5 ～ 6 時間目	建築施工（足場）・建築法規（総論）		
7 ～ 8 時間目	建築法規（建築基準法）		
9 ～ 10 時間目	電気総論		
11 ～ 12 時間目	電流・電圧・抵抗・電気回路		
13 ～ 14 時間目	電磁力・コンデンサ		
15 ～ 16 時間目	直流と交流		
17 ～ 18 時間目	交流（三相交流）		
19 ～ 22 時間目	2級土木施工管理技士（共通問題）解説		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	図解 2級土木施工管理技士試験テキスト	出版社：実教出版
	教材	配布資料	著 者：浅賀榮三
備考			科目コード 10036

■ 測量設計科 教科目〔科目担当者〕一覧

測量実務経験者授業	1555 時間	1830.0 時間
施工実務経験者授業	275 時間	
授業総時間	2528 時間	

科 目	学年	必選別	担 当 者	測量実務 経験者	施工実務 経験者	時間数
一般教養	1	必修	桑原 廣志			36
測量に関する法規	1	必修	中澤 律夫	○		33
測量に関する数学	1	必修	小川 隼人	○		131
測量に関する情報処理	1	必修	水谷 文一	○		28
測量学概論	1	必修	中澤 律夫	○		46
三角測量	1	必修	中澤 律夫	○		18
多角測量	1	必修	宮口 直人	○		76
汎地球測位システム測量	1	必修	宮口 直人	○		33
水準測量	1	必修	成田 節雄			38
地形測量	1	必修	小川 隼人	○		69
写真測量	1	必修	水谷 文一	○		69
地図編集	1	必修	小川 隼人	○		49
応用測量	2	必修	宮口 直人	○		102
測量実習	1	必修	水谷 文一	○		228
測量実習	2	必修	加藤 正義	○		170
集中実習	1	必修	加藤 正義	○		138
地理情報システム (GIS)	2	必修	中島 義雄	○		29
補償業務概論	2	必修	土川 治男	○		38
応用力学	1	必修	鈴木 将仁			56
応用力学	2	必修	望月 博達			18
土質工学	1	必修	梅田 忠			76
水理学	1	必修	梅田 忠			38
環境学概論	2	必修	中澤 律夫	○		18
建設演習	2	必修	梅田 忠			47
I S O	1	必修	成田 節雄			20
経理・積算	1	必修	成田 節雄			34
土木材料学	2	必修	杉浦 孝文	○		36
土木法規	2	必修	早川 真司		○	36
土木施工学	2	必修	田口 朗		○	80
V E	2	必修	川上 雄史	○		18
鉄筋コンクリート工学	2	必修	杉浦 孝文	○		22
橋梁工学	2	必修	宮口 直人	○		22
衛生工学	2	必修	所 和久		○	22
環境交通工学	2	必修	野村 種明			22
環境河海工学	2	必修	高井 勝由		○	36

科 目	学年	必選別	担 当 者	測量実務 経験者	施工実務 経験者	時間数
都市計画	2	必修	梅田 忠			11
工事管理	2	必修	小山 勉		○	80
情報処理・演習	2	必修	梅田 忠			47
CALS/EC	2	必修	桑野 雅裕			18
製図・設計・CAD	1	必修	山西 孝二		○	21
製図・設計・CAD	2	必修	澤田 謙二	○		162
実験	1	必修	梅田 忠			21
実験	2	必修	梅田 忠			58
企業実習	2	必修	梅田 忠			140
ホームルーム	1	必修	水谷 文一	○		20
ホームルーム	2	必修	梅田 忠			18

授業計画（シラバス）

【2021～2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	補償業務概論		
② 対象学科	工業専門課程 測量設計科	③ 履修学年	2
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	38
⑦ 担当教員(代表)	土川 治男	⑥ 授業形態	講義
⑧ 実務経験	測量実務経験者		
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
補償業務管理士コースⅡの受験短縮認定の科目である。 社会基盤の整備を担う技術者としてこれに伴う用地取得、損失の補償の重要性を理解し幅広い知識を身につける。			
⑪ 授業の概要			
公共事業の現状、補償コンサルタント、用地補償、土地・建物の調査および補償、特殊な権利、公共補償の基準を修得する。			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 2 時間目	公共事業の現状と補償コンサルタント		
3 ～ 4 時間目	用地補償体系概論		
5 ～ 5 時間目	用地事務概要		
6 ～ 11 時間目	土地に関する調査と補償		
12 ～ 17 時間目	建物に関する調査と補償		
18 ～ 18 時間目	機械工作物の調査と補償		
19 ～ 20 時間目	立竹木の調査と補償		
21 ～ 26 時間目	営業に関する調査と補償		
27 ～ 28 時間目	特殊な権利に関する調査と補償		
29 ～ 29 時間目	その他通常受ける損失と補償		
30 ～ 31 時間目	残地及び隣接地の補償概要		
32 ～ 33 時間目	事業損失の補償		
34 ～ 34 時間目	公共補償基準の概要		
35 ～ 36 時間目	土地収用法の概要		
37 ～ 38 時間目	生活再建措置等		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	補償業務概説	出版社：日本補償コンサルタント協会
	教材	配布資料	著者：
備考			科目コード 11016

授業計画（シラバス）

【2021～2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	VE		
② 対象学科	工業専門課程 測量設計科	③ 履修学年	2
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	18
⑦ 担当教員(代表)	川上 雄史	⑥ 授業形態	演習
⑧ 実務経験	測量実務経験者		
⑨ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>土木構造物を完成させるためには、製品の品質や信頼性という機能的価値を低下させずに、生産コスト・購入価格の低減を行う必要がある。 要求される機能を分析し、その機能を達成するための最小コストを判断して価値向上に取り組む活動がVEであることを理解させる。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>Eに関する基礎的な知識と技術を修得し、より高度な土木技術への応用に役立てる。 VEは製品・半製品の、(1)機能評価、(2)構造の再検討、構成部品・使用材料の代替品の探索、新しい加工方法・作業方法の開発、(3)それらの実現可能性(フィージビリティ)、コストの評価、(4)最適組み合わせの選択、(5)実施、という演習で修得する。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～	1 時間目	VE概論	
2 ～	2 時間目	WSS概要	
3 ～	5 時間目	機能の定義・機能の整理	
6 ～	8 時間目	機能別コスト分析・機能の評価・対象分野の選定	
9 ～	11 時間目	アイデア発想・概略評価・具体化	
12 ～	13 時間目	詳細評価・提案	
14 ～	16 時間目	重要用語集・ポイント・理解度テスト解答&解説	
15 ～	15 時間目	実力確認問題	
16 ～	16 時間目	演習課題	
17 ～	17 時間目	ワークシート	
18 ～	18 時間目	基本暗記テスト	
～	時間目		
⑬ その他	教科書	新・VEの基本	出版社：産業大学出版部刊
	教材	配布資料	著者：土屋 裕
備考			科目コード 11028

授 業 計 画 (シラバス)

【2021～2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	工事管理		
② 対象学科	工業専門課程 測量設計科	③ 履修学年	2
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	80
⑦ 担当教員(代表)	小山 勉	⑥ 授業形態	講義
⑧ 実務経験	施工実務経験者		
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
工事管理の基礎を学び、4大管理機能を理解し円滑で高品質な建設工事を行える能力を身につけ、土木施工管理技士に合格できる知識を理解させる。			
⑪ 授業の概要			
建設事業の進め方と構造物を造るにあたり、基本となる施工技術について理解するとともに、工事管理の四大管理機能である「工程管理（早く）」「品質管理（良く）」「原価管理（安く）」「安全管理（安全に）」について、その基礎知識を習得し、一連の工事をコントロールできる建設技術者の知識を修得する。			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 5 時間目	施工管理の目標 四大管理機能		
6 ～ 10 時間目	施工計画の基本方針		
11 ～ 15 時間目	日程計画の基本事項 平均施工量		
16 ～ 20 時間目	作業可能日数		
21 ～ 25 時間目	土量変化率		
26 ～ 30 時間目	仮設備計画		
31 ～ 35 時間目	工程管理の目的と意義		
36 ～ 40 時間目	工程図表 横線式と斜線式		
41 ～ 50 時間目	ネットワークによる工程表		
51 ～ 55 時間目	日程短縮		
56 ～ 60 時間目	品質管理 施工の品質		
61 ～ 65 時間目	Q. C手法の解説		
66 ～ 70 時間目	安全管理 安全管理組織		
71 ～ 75 時間目	安全基準		
75 ～ 80 時間目	原価管理		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	最新土木施工	出版社：森北出版
	教材	配布資料	著 者：
備考			科目コード 11035

■ 測量研究科 教科目〔科目担当者〕一覧

測量実務経験者授業	1103 時間	1103.0 時間
施工実務経験者授業	0 時間	
授業総時間	1294 時間	

科 目	学年	必選別	担 当 者	測量実務 経験者	施工実務 経験者	時間数
一般法規	1	必修	中島 義雄	○		18
測量関連条約法律	1	必修	中澤 律夫	○		18
数学	1	必修	望月 博達			31
物理学・地球科学	1	必修	中島 義雄	○		18
統計学	1	必修	望月 博達			13
地域計画	1	必修	望月 博達			31
土木・計測学	1	必修	中島 義雄	○		13
電子工学	1	必修	宮口 直人	○		18
情報処理	1	必修	宮口 直人	○		31
測地測量	1	必修	宮口 直人	○		36
基準点測量	1	必修	小川 隼人	○		38
水準測量	1	必修	宮口 直人	○		36
汎地球測位システム(GPS)測量	1	必修	宮口 直人	○		38
地形測量Ⅰ	1	必修	小川 隼人	○		20
地形測量Ⅱ	1	必修	小川 隼人	○		29
写真測量Ⅰ	1	必修	鈴木 将仁			36
写真測量Ⅱ	1	必修	野村 種明			62
リモートセンシング	1	必修	中島 義雄	○		26
地理情報システムⅠ	1	必修	中島 義雄	○		54
地理情報システムⅡ	1	必修	中島 義雄	○		76
地図編集	1	必修	望月 博達			18
応用測量Ⅰ	1	必修	宮口 直人	○		36
応用測量Ⅱ	1	必修	小川 隼人	○		57
プレゼンテーション	1	必修	宮口 直人	○		19
課題研究	1	必修	中澤 律夫	○		153
測量実務	1	必修	中澤 律夫	○		63
実習	1	必修	中澤 律夫	○		196
集中実習	1	必修	中澤 律夫	○		110

授業計画（シラバス）

【2021～2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	情報処理		
② 対象学科	工業専門課程 測量研究科	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	31
⑦ 担当教員(代表)	宮口 直人	⑥ 授業形態	実習
⑧ 実務経験	測量実務経験者		
⑨ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
コンピュータシステムを利用するために必要となる情報や知識を理解し、情報処理に関する実践的能力と基本的な情報処理能力の定着を目標とする。			
⑪ 授業の概要			
コンピュータシステム、計算機工学、通信工学、画像工学、プログラミング、アプリケーションソフト（測量ソフト）の基礎と活用などコンピュータの活用能力について修得する。			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 2 時間目	講義・・・概論		
3 ～ 4 時間目	計算機工学		
5 ～ 6 時間目	通信工学		
7 ～ 8 時間目	画像工学		
9 ～ 10 時間目	プログラミング		
11 ～ 11 時間目	実習・・・概論		
12 ～ 12 時間目	データ（データベース）		
13 ～ 13 時間目	ソフトウェア（アプリケーションソフト基礎）		
14 ～ 14 時間目	ソフトウェア（アプリケーションソフト応用）		
15 ～ 19 時間目	コンピュータによる測量計算（座標計算等）		
20 ～ 21 時間目	コンピュータによる測量計算（面積計算等）		
22 ～ 24 時間目	路線設計（平面線形等）		
25 ～ 27 時間目	路線設計（縦・横断面図等）		
28 ～ 31 時間目	コンピュータによる測量計算（地籍図等）		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	出版社：	
	教材	著者：	
	配布資料		
備考			科目コード 13009

■ 測量研究科 教科目〔科目担当者〕一覧

測量実務経験者授業	1103 時間	1103.0 時間
施工実務経験者授業	0 時間	
授業総時間	1294 時間	

科 目	学年	必選別	担 当 者	測量実務 経験者	施工実務 経験者	時間数
一般法規	1	必修	中島 義雄	○		18
測量関連条約法律	1	必修	中澤 律夫	○		18
数学	1	必修	望月 博達			31
物理学・地球科学	1	必修	中島 義雄	○		18
統計学	1	必修	望月 博達			13
地域計画	1	必修	望月 博達			31
土木・計測学	1	必修	中島 義雄	○		13
電子工学	1	必修	宮口 直人	○		18
情報処理	1	必修	宮口 直人	○		31
測地測量	1	必修	宮口 直人	○		36
基準点測量	1	必修	小川 隼人	○		38
水準測量	1	必修	宮口 直人	○		36
汎地球測位システム(GPS)測量	1	必修	宮口 直人	○		38
地形測量Ⅰ	1	必修	小川 隼人	○		20
地形測量Ⅱ	1	必修	小川 隼人	○		29
写真測量Ⅰ	1	必修	鈴木 将仁			36
写真測量Ⅱ	1	必修	野村 種明			62
リモートセンシング	1	必修	中島 義雄	○		26
地理情報システムⅠ	1	必修	中島 義雄	○		54
地理情報システムⅡ	1	必修	中島 義雄	○		76
地図編集	1	必修	望月 博達			18
応用測量Ⅰ	1	必修	宮口 直人	○		36
応用測量Ⅱ	1	必修	小川 隼人	○		57
プレゼンテーション	1	必修	宮口 直人	○		19
課題研究	1	必修	中澤 律夫	○		153
測量実務	1	必修	中澤 律夫	○		63
実習	1	必修	中澤 律夫	○		196
集中実習	1	必修	中澤 律夫	○		110

■ 建築工学科（夜間部） 教科目〔科目担当者〕一覽

設計実務経験者授業	1472 時間	1584.0 時間
施工実務経験者授業	112 時間	
授業総時間	1716 時間	

科 目	学年	必選別	担 当 者	設計実務 経験者	施工実務 経験者	時間数
建築製図 I	1	必修	三ッ井 正和	○		240
建築製図 II	2	必修	清水 英隆	○		152
建築CAD I	1	必修	河崎 真樹子	○		76
建築CAD II	2	必修	清水 英隆	○		76
建築計画	1	必修	石川 義雄	○		84
計画実践	2	必修	佐藤 龍彦	○		84
建築史	2	必修	澤田 多喜二			48
環境工学	1	必修	澤田 多喜二			84
建築設備	2	必修	西岡 英明	○		84
構造力学	1	必修	森 登	○		76
建築一般構造	1	必修	安藤 修	○		84
構造計算	2	必修	森 登	○		84
建築材料	1	必修	二宮 伸吾	○		84
建築施工	1	必修	稲生 哲雄	○		76
施工図	2	必修	佐藤 龍彦	○		56
建築積算	2	必修	二宮 伸吾	○		56
建築法規	1	必修	青山 好之	○		76
施工管理	2	必修	稲生 哲雄	○		84
建築士演習	2	必修	長島 建雄		○	56
建築測量実験	2	必修	堀 佳宏		○	56

授 業 計 画 (シラバス)

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築製図Ⅱ		
② 対象学科	工業専門課程 建築工学科 (夜間部)	③ 履修学年	2
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	152
⑦ 担当教員(代表)	清水 英隆	⑥ 授業形態	演習
⑧ 実務経験	設計実務経験者		
⑨ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>1. クライアントの希望や設計条件を正確に把握できる能力を身につける。</p> <p>2. 設計資料の収集の仕方や分析、また、設計時に必要な計画上の基礎知識を増やす。</p> <p>3. 提案の趣旨を効果的にプレゼンテーションできる能力を磨く。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>木造の設計では住宅の平面・立面をはじめ、伏図・軸組等の構造図までを描く。木造以外の設計では鉄筋コンクリート造の共同住宅(標準規模:住戸面積80㎡、延べ面積2400㎡、4階建て程度)・ホテル・図書館・学校・公民館と鉄骨造の商業施設の中から一つを選択し設計する。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ~ 12 時間目	木造2階建専用住宅の設計図面(エスキース等)の作成		
13 ~ 18 時間目	木造2階建専用住宅の設計図面(配置図・求積図・面積表・1階平面図・2階平面図)の作成		
19 ~ 24 時間目	木造2階建専用住宅の設計図面(立面図・断面図)の作成		
25 ~ 30 時間目	木造2階建専用住宅の設計図面(矩計図)の作成		
31 ~ 36 時間目	木造2階建専用住宅の設計図面(1階平面詳細図・2階平面詳細図)の作成		
37 ~ 42 時間目	木造2階建専用住宅の設計図面(展開図)		
43 ~ 48 時間目	木造2階建専用住宅の設計図面(基礎伏図・1階床伏図)の作成		
49 ~ 54 時間目	木造2階建専用住宅の設計図面(2階床伏図兼1階小屋伏図・2階小屋伏図)の作成		
55 ~ 60 時間目	木造2階建専用住宅の設計図面(各通り軸組図・仕上げ表・表紙)の作成		
61 ~ 66 時間目	木造2階建専用住宅の壁量計算書の作成		
67 ~ 72 時間目	木造2階建専用住宅の確認申請書の作成		
73 ~ 82 時間目	非木造建築物の設計図面(エスキース等)の作成		
83 ~ 88 時間目	非木造建築物の設計図面(配置図・求積表・面積表・1階平面図)の作成		
89 ~ 94 時間目	非木造建築物の設計図面(基準階平面図等)の作成		
95 ~ 100 時間目	非木造建築物の設計図面(屋階平面図等)の作成		
101 ~ 106 時間目	非木造建築物の設計図面(立面図等)の作成		
107 ~ 112 時間目	非木造建築物の設計図面(断面図等)の作成		
113 ~ 118 時間目	非木造建築物の設計図面(1階平面詳細図等)の作成		
119 ~ 124 時間目	非木造建築物の設計図面(基準階平面詳細図等)の作成		
125 ~ 133 時間目	非木造建築物の設計図面(断面詳細図等)の作成		
134 ~ 142 時間目	非木造建築物の設計図面(大梁、小梁、柱の断面リスト)の作成		
143 ~ 152 時間目	非木造建築物の設計図面(各種伏図・各種配筋図)の作成		
~ 時間目			
~ 時間目			
⑬ その他	教科書	超入門 建築製図	出版社: 市ヶ谷出版社
	教材	配布資料	著者: 永井孝保 他
備考	⑮については、45分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、1単位に満たない場合は小数点第2位以下を切り捨てる。		科目コード 110102

授 業 計 画 (シラバス)

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築計画		
② 対象学科	工業専門課程 建築工学科 (夜間部)	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	84
⑦ 担当教員(代表)	石川 義雄	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
各種建築物に関する知見を整理し、設計段階(基本設計)における空間計画(特に平面計画)の基礎知識を習得する。さらに、これらの知識を活用し設計製図に取り組める能力を養っていく。			
⑪ 授業の概要			
空間計画としての必須条件と、人間の生活・行動に関わる基本的な考え方を踏まえ、各種ビルディングタイプ別にその歴史・背景から、全体計画及び細部計画にいたるまでの知識を習得する。			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ~ 2 時間目	計画と設計、居住施設の計画(住様式と住宅の変化)		
3 ~ 6 時間目	居住施設の計画(一戸建て住宅)		
7 ~ 12 時間目	居住施設の計画(集合住宅)		
13 ~ 18 時間目	居住住宅の計画(細部計画)		
19 ~ 24 時間目	学校教育施設の計画(幼稚園・保育所)		
25 ~ 30 時間目	学校教育施設の計画(小学校・中学校)		
31 ~ 34 時間目	社会教育施設の計画(生活圏とコミュニティ施設)		
35 ~ 38 時間目	社会教育施設の計画(図書館)		
39 ~ 44 時間目	社会教育施設の計画(美術館)		
45 ~ 48 時間目	社会教育施設の計画(コミュニティセンター・公民館)		
49 ~ 52 時間目	医療施設・福祉施設の計画(高齢化社会と建築計画)		
53 ~ 56 時間目	医療施設・福祉施設の計画(病院)		
57 ~ 60 時間目	医療施設・福祉施設の計画(高齢者施設)		
61 ~ 64 時間目	商業施設の計画(規模計画と経済効果)		
65 ~ 69 時間目	商業施設の計画(事務所ビル)		
70 ~ 74 時間目	商業施設の計画(劇場・音楽ホール)		
75 ~ 79 時間目	商業施設の計画(百貨店・スーパーマーケット・駐車場)		
80 ~ 83 時間目	商業施設の計画(宿泊施設・ホテル)		
84 ~ 84 時間目	外部空間の計画、まとめ		
~ 時間目			
⑬ その他	教科書	初学者の建築講座 建築計画	出版社: 市ヶ谷出版社
	教材	配布資料	著者: 佐藤考一・五十嵐太郎
備考	⑤については、45分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、1単位に満たない場合は小数点第2位以下を切り捨てる。		科目コード 110201

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	計画実践		
② 対象学科	工業専門課程 建築工学科（夜間部）	③ 履修学年	2
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	84
⑦ 担当教員(代表)	佐藤 龍彦	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>建築計画と建築製図の知識を活かし、より実践的な条件下で、住宅から各種建築物の具体的な間取りや外観等を多角的に検討して行く。実際のエスキース作業を通し、建物の計画立案における各段階に必要な知識と技術を習得させる。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>実戦的問題演習により、総合的に建築計画をまとめて行く。 1. エスキース段階における建物内外の立体的思考をする。 2. デザインのみにとられず、構造面にも十分配慮された計画の立案をする。 3. 木造・鉄筋コンクリート造・鉄骨造の各構造の特徴をふまえた計画を立案する。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 8 時間目	住宅様式の変遷と住宅平面の類型、住宅における各室の機能と配置・平面計画		
9 ～ 14 時間目	木造戸建て住宅の、配置・平面計画とエスキース演習		
15 ～ 20 時間目	木造戸建て住宅の、基礎伏せ図・1階床伏せ図の作図法		
21 ～ 26 時間目	木造戸建て住宅の、2階床伏せ図・小屋伏せ図の作図法		
27 ～ 32 時間目	木造戸建て住宅各伏せ図の作図演習		
33 ～ 38 時間目	木造戸建て住宅の矩計図の作図法		
39 ～ 44 時間目	鉄筋コンクリート造・鉄骨造の平面・立面・断面計画		
45 ～ 50 時間目	鉄筋コンクリート造公共施設の平面計画とエスキース演習		
51 ～ 56 時間目	鉄骨造建築物の平面計画とエスキース演習		
57 ～ 64 時間目	木造2階建て住宅の平面計画とエスキース演習		
65 ～ 72 時間目	店舗併用住宅の平面計画とエスキース演習		
73 ～ 82 時間目	鉄筋コンクリート建築の平面計画とエスキース演習		
83 ～ 84 時間目	鉄骨建築の平面計画とエスキース演習		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	出版社：	
	教材	著者：	
		配布資料	
備考	⑮については、45分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、1単位に満たない場合は小数点第2位以下を切り捨てる。		科目コード 110202

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築史		
② 対象学科	工業専門課程 建築工学科（夜間部）	③ 履修学年	2
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	48
⑦ 担当教員(代表)	澤田 多喜二	⑧ 実務経験	
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>単なる技術の歴史だけではなく、気候風土から政治・社会・宗教にいたるまで建築独自の性格について、日本建築・西洋建築について学び、建築物の特徴やデザイン、建築美について学ぶ。これにより建築技術者としての必要な常識を養い、その基盤に立ってこれからの建築のあり方についての進路を切り開く。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>各時代の代表的な建築物をいくつか具体的に取り上げ、クローズアップしていく。その時代の建築物の特徴・材料・技術（工法）史を捉えることにより、次の時代への考察も併行して行う。建築の変遷の流れと特徴を正しく理解することにより、現代建築学が向かうべき姿勢を学習する。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 4 時間目	日本古代の建築（縄文～古墳時代の住居、集落、奈良・平安時代の仏寺建築、神社建築、寝殿造）		
5 ～ 8 時間目	日本中世の建築（和様、大仏様、禅宗様の特徴、新しい建築様式）		
9 ～ 12 時間目	日本近世の建築1（城郭建築、書院造、数寄屋風建築、寺院建築）		
13 ～ 16 時間目	日本近世の建築2（霊廟建築、農家の発達）		
17 ～ 20 時間目	西洋古代の建築（オリエント、エジプト、ギリシア、ローマ建築の特徴と技術史）		
21 ～ 24 時間目	西洋中世の建築（初期キリスト教、ビザンチン、ロマネスク、ゴシック建築の特徴と技術史）		
25 ～ 28 時間目	西洋近世の建築（ルネサンス、バロック、新古典主義建築の特徴と技術史）		
29 ～ 30 時間目	近代建築史「西洋」（産業革命、造形と芸術、様式の確率、国際建築の発展）		
31 ～ 36 時間目	近代建築史「日本」（洋風建築、外人技士の活動と日本建築家の育成）		
37 ～ 46 時間目	近代建築史「戦後」（ポストモダン、耐震建築構造の発展、都市、建築家のあり方とそのニーズ）		
47 ～ 48 時間目	総まとめ（最新の建築状況について、及び考察）		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	コンパクト版 建築史（日本・西洋）	出版社：彰国社
	教材		著者：「建築史」編集委員会
備考	⑤については、45分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、1単位に満たない場合は小数点第2位以下を切り捨てる。		科目コード 110203

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	環境工学		
② 対象学科	工業専門課程 建築工学科（夜間部）	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	84
⑦ 担当教員(代表)	澤田 多喜二	⑧ 実務経験	
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>健康で快適な室内環境を実現するための知識として、建築に求められる環境条件を物理量や感覚評価量を体系的にとらえて学び、それらを建築の設計・計画に応用し、利用できる能力の習得を目標とする。また、地球温暖化対策や資源の有効活用、廃棄物の再利用など環境に配慮した建築のあり方にも指針となるものとする。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>住環境の科学的基礎の学習。室内気候全般、空気環境、熱環境・光環境・音環境について人間との関わりを軸に学ぶ。また、人間の温熱感覚を表す指標やその測定方法、自然環境と建築物の基本的関係についても注目していく。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 5 時間目	太陽位置と日照		
6 ～ 10 時間目	日影・日射		
11 ～ 15 時間目	測光量と採光		
16 ～ 20 時間目	人工照明		
21 ～ 26 時間目	色彩の表し方と色彩計画		
27 ～ 32 時間目	空気汚染と必要換気量		
33 ～ 38 時間目	自然換気と機械換気		
39 ～ 43 時間目	伝熱の基本		
44 ～ 48 時間目	建物全体の熱特性		
49 ～ 53 時間目	湿り空気と空気線図		
54 ～ 58 時間目	結露		
59 ～ 65 時間目	温熱感覚指標		
66 ～ 72 時間目	気象と都市環境		
73 ～ 80 時間目	音の性質		
81 ～ 84 時間目	音響計画		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	初学者の建築講座 建築環境工学	出版社：市ヶ谷出版社
	教材		著者：倉渕 隆
備考	⑤については、45分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、1単位に満たない場合は小数点第2位以下を切り捨てる。		科目コード 110301

授 業 計 画 (シラバス)

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築設備		
② 対象学科	工業専門課程 建築工学科 (夜間部)	③ 履修学年	2
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	84
⑦ 担当教員(代表)	西岡 英明	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
建築設備の概要を理解させる。建築と設備の関連性について習得させ、建築技術者として、建築設備の知識を育成する。 建築設備の用語・方式を理解させる。建築設備全般的な考え方を理解させる。建築技術者として、建築設備の知識を習得する。			
⑪ 授業の概要			
人間生活をより快適でより安全とするための具体的な各種設備（給水・排水・ガス設備・電気設備・空調設備・電気設備等）について、用語から各種方式までを理解し、建築設備への全体的な考え方と適切な方式の選択方法などを学習する。			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 2 時間目	建築設備の分類・概論		
3 ～ 6 時間目	給排水衛生設備の概要（役割・構成等）		
7 ～ 14 時間目	給水設備（方式の種類と特徴・必要圧力・タンク設置規定・管材と施工方法等）		
15 ～ 20 時間目	給湯設備（方式の種類と特徴・給湯温度・管材と施工方法等）		
21 ～ 28 時間目	排水設備・通気設備（方式の種類と特徴・排水トラップ・管材と施工方法等）		
29 ～ 34 時間目	屋外排水設備（排水枘の種類・方式・施工法等）		
35 ～ 40 時間目	排水処理設備（排水処理方法・浄化槽の性能）		
41 ～ 44 時間目	空気調和設備の概要（役割・構成等）		
45 ～ 54 時間目	空気調和設備（室内環境基準・種類・特徴・空調負荷・空調機器等）		
55 ～ 62 時間目	換気設備（方式の種類と特徴・必要換気量の算出等）		
63 ～ 65 時間目	電気設備の概要（役割・構成等）		
66 ～ 68 時間目	受変電・幹線・動力設備		
69 ～ 73 時間目	照明・コンセント設備		
74 ～ 78 時間目	消火設備（方式の種類と特徴等）		
79 ～ 82 時間目	防災設備（自動火災報知設備）		
83 ～ 84 時間目	ガス設備（方式・種類・機器性能等）		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	初学者の建築講座 建築設備	出版社：市ヶ谷出版社
	教材		著 者：大塚雅之
備考	⑤については、45分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、1単位に満たない場合は小数点第2位以下を切り捨てる。		科目コード 110401

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	構造力学		
② 対象学科	工業専門課程 建築工学科（夜間部）	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	76
⑦ 担当教員（代表）	森 登	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>構造物に外力が作用した場合、構造物を安全かつ経済的に設計するための、構造計算の基礎となる一般原理を習得する。建築技術者として建築物の安全性に関わる非常に重要な建築構造の一分野であることを認識し、構造計画・計算のための基礎知識を習得する。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>力学の入門(力のモーメント・反力等)から、静定構造物に働く各種の荷重・応力等について理解し、構造物を構成する部材の大きさや断面の形状による力学的性質等についても学ぶ。さらには、静定構造物の解法から発展させ、不静定構造物について、より応力算定としては高度で複雑な計算知識と理論（固定モーメント法やD値法等）を習得する。崩壊荷重（耐力）を求める方法（仮想仕事法等）についても学ぶ。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 2 時間目	力および荷重の基礎		
3 ～ 4 時間目	力のモーメント		
5 ～ 6 時間目	力の合成と分解		
7 ～ 8 時間目	力の釣り合い		
9 ～ 12 時間目	反力の求め方		
13 ～ 16 時間目	単純梁の応力		
17 ～ 18 時間目	片持ち梁の応力		
19 ～ 22 時間目	単純梁系ラーメンの応力		
23 ～ 24 時間目	3ヒンジラーメンの解法		
25 ～ 42 時間目	トラスの解法（節点法・切断法）		
43 ～ 44 時間目	断面に関する数量（図心）		
45 ～ 47 時間目	断面に関する数量（断面2次モーメント・断面係数）		
48 ～ 50 時間目	軸応力度（ひずみ度・ヤング係数）・せん断応力度		
51 ～ 52 時間目	曲げ応力度		
53 ～ 54 時間目	許容応力度・許容曲げモーメント		
55 ～ 56 時間目	曲げ応力度と軸応力度の組み合わせ		
57 ～ 58 時間目	座屈		
59 ～ 60 時間目	たわみ		
61 ～ 64 時間目	不静定構造（不静定構造とは・不静定構造の解法）		
65 ～ 68 時間目	塑性解析（静定構造の崩壊と全塑性モーメント）		
69 ～ 72 時間目	塑性解析（不静定構造の崩壊と崩壊荷重）		
73 ～ 76 時間目	塑性解析（不静定ラーメンの崩壊と保有水平耐力）		
～ 時間目			
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	基礎から学ぶ 建築構造設計 及び 配布資料	出版社：実教出版 著者：実教出版編修部
	教材		
備考	⑤については、45分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、1単位に満たない場合は小数点第2位以下を切り捨てる。		科目コード 110501

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築一般構造		
② 対象学科	工業専門課程 建築工学科（夜間部）	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	84
⑦ 担当教員（代表）	安藤 修	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
建築物の概要と構造の種類、構造方式の考え方について理解する。建築設計者・施工者としての必要な構造に関する技術・知識を養う。			
⑪ 授業の概要			
各種躯体（木造・鉄筋コンクリート造・鉄骨造・組積造・プレストレスコンクリート造等）の基本的な構法や、各部構法（基礎・屋根・壁・開口部・床・階段・天井・造作と納まり等）を学ぶ。そして、1つの建築物が建っていくまでの流れを理解したり、現存する建築物の構法についても理解を深める。			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 3 時間目	建築構造とは（建築物の構成要素、建築物の安定と不安定）		
4 ～ 6 時間目	建築構造とは（建築物に作用する外力とその伝達のメカニズム、構造設計法の概要）		
7 ～ 13 時間目	木構造（木構造の概要、木材の材料特性、木材の接合）		
14 ～ 20 時間目	木構造（軸組、小屋組、床組）		
21 ～ 27 時間目	木構造（階段、枠組壁構法、構造用大断面集成材を用いた構造）		
28 ～ 30 時間目	鉄筋コンクリート構造（鉄筋コンクリート構造とは、RC構造の材料）		
31 ～ 33 時間目	鉄筋コンクリート構造（RC基準による許容応力度、梁・柱部材の設計）		
34 ～ 40 時間目	鉄筋コンクリート構造（スラブ、耐震壁）		
41 ～ 47 時間目	鉄筋コンクリート構造（断面算定、その他のコンクリート系構造）		
48 ～ 49 時間目	鉄骨構造（鉄骨構造の概要、鋼材の種類と性質）		
50 ～ 52 時間目	鉄骨構造（接合、各部材の設計）		
53 ～ 58 時間目	鉄骨構造（床、柱脚）		
59 ～ 61 時間目	鉄骨構造（トラス構造）		
62 ～ 64 時間目	鉄骨構造（そのほかの鉄骨造、耐火被覆および錆止め）		
65 ～ 66 時間目	基礎構造（基礎の種類、地層と地盤）		
67 ～ 68 時間目	基礎構造（土の性質、根切り・地業、直接基礎）		
69 ～ 70 時間目	基礎構造（杭基礎、地盤改良、土圧および擁壁）		
71 ～ 72 時間目	各部構造（屋根）		
73 ～ 76 時間目	各部構造（壁）		
77 ～ 80 時間目	各部構造（床）		
81 ～ 82 時間目	各部構造（天井）		
83 ～ 84 時間目	各部構造（開口部）		
～ 時間目			
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	図説 やさしい建築一般構造	出版社：学芸出版社
	教材		著者：今村仁美・田中美都
備考	⑤については、45分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、1単位に満たない場合は小数点第2位以下を切り捨てる。		科目コード 110601

授 業 計 画 (シラバス)

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	構造計算		
② 対象学科	工業専門課程 建築工学科 (夜間部)	③ 履修学年	2
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	84
⑦ 担当教員(代表)	森 登	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
地震や台風などの外力に対して、安全を確保することは、設計上重要な要素である。法規上定められた強度を、経済的に確保し、豊かな建築空間を実現するために必要な工学的判断力と基本的な構造設計の手法を習得する。			
⑪ 授業の概要			
モデル建築物の構造計算書を例示し、構造計算の具体的な手順を詳細に分析し、その考え方を理解する。その後、演習を通じて鉄筋コンクリート造建物等の構造設計の流れを体得する。			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 1 時間目	構造設計と考え方		
2 ～ 7 時間目	荷重計算		
8 ～ 13 時間目	剛比の計算		
14 ～ 19 時間目	鉛直荷重時のC, M0, Q0の計算		
20 ～ 25 時間目	鉛直荷重時の柱軸方向力の計算		
26 ～ 31 時間目	地震力の算定		
32 ～ 37 時間目	鉛直荷重時の応力を計算 (固定モーメント法)		
38 ～ 40 時間目	柱のせん断分布係数および反曲点高比の計算		
41 ～ 46 時間目	水平荷重時の応力計算 (D値法)		
47 ～ 49 時間目	地震時における二次設計の必要性の検討		
50 ～ 52 時間目	剛性率、偏心率、層間変形角の検討、保有水平耐力の検討		
53 ～ 58 時間目	大梁の断面算定		
59 ～ 66 時間目	柱の断面算定		
67 ～ 74 時間目	基礎の設計		
75 ～ 82 時間目	小梁の設計		
83 ～ 84 時間目	スラブの設計		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	図説 建築構造設計	出版社：学芸出版社 著 者：植村典人・藤田光男・大津秀夫
	教材	配布資料	
備考	⑮については、45分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、1単位に満たない場合は小数点第2位以下を切り捨てる。		科目コード 110602

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築材料		
② 対象学科	工業専門課程 建築工学科（夜間部）	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	84
⑦ 担当教員(代表)	二宮 伸吾	⑥ 授業形態	講義
⑧ 実務経験	設計実務経験者		
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>木造・RC造・S造等の建築設計・施工時に使用される主要材料の製造・性質・種類などの基礎的な知識を習得する。建築実務に携わった際にプロとして対応できる基本的な知識を備えていること。建築材料の知識が、建築設計や施工時にどのように繋がっていくか習得する。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>建築物の具体的使用例等を例示しながら、セメント・コンクリート・金属・木材等の建築物としての主要建築材料や、その他塗料・ガラス・タイル・石材・左官材等の仕上げ材料の基本から応用的な知識までを学ぶ。また、新建材についても取り上げその特徴を分析する。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 4 時間目	概要		
5 ～ 13 時間目	構造材料（木材）		
14 ～ 22 時間目	構造材料（鋼材）		
23 ～ 43 時間目	構造材料（コンクリート）		
44 ～ 48 時間目	仕上げ材料（タイル・煉瓦）		
49 ～ 53 時間目	仕上げ材料（石材・ガラス）		
54 ～ 58 時間目	仕上げ材料（左官・吹付材）		
59 ～ 63 時間目	仕上げ材料（プラスチック）		
64 ～ 68 時間目	仕上げ材料（塗料）		
69 ～ 73 時間目	仕上げ材料（防水材料）		
74 ～ 78 時間目	その他の仕上げ材料		
79 ～ 84 時間目	総合演習		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	初学者の建築講座 建築材料	出版社：市ヶ谷出版社
	教材		著者：橘高義典 他
備考	⑤については、45分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、1単位に満たない場合は小数点第2位以下を切り捨てる。		科目コード 110701

授 業 計 画 (シラバス)

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築施工		
② 対象学科	工業専門課程 建築工学科 (夜間部)	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	76
		⑥ 授業形態	講義
⑦ 担当教員(代表)	稲生 哲雄	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>建築生産をはじめとし、躯体工事、仕上げ工事等の各種工事から1つの現場の流れについて理解し、建築施工者としての必要な施工に関する技術・知識を養う。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>鉄筋コンクリート・鉄骨・木・土工事等の躯体工事の基本的な施工方法や左官・防水・内装等の仕上げ工事の施工方法の知識を学ぶ。そのほか工事の請負契約や請負制度の概略を学ぶ。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 2 時間目	建築生産 (設計と施工)		
3 ～ 6 時間目	施工計画 (品質管理・材料管理・工程管理・安全管理・工程表の理解)		
7 ～ 10 時間目	仮設工事・準備工事 (共通仮設工事・直接仮設工事・施工機械)		
11 ～ 17 時間目	土工事・地業・基礎工事		
18 ～ 26 時間目	躯体工事 (鉄筋コンクリート工事)		
27 ～ 35 時間目	躯体工事 (鉄骨造)		
36 ～ 44 時間目	躯体工事 (木工事)		
45 ～ 48 時間目	仕上工事 (屋根工事)		
49 ～ 52 時間目	仕上工事 (防水工事)		
53 ～ 56 時間目	仕上工事 (左官工事)		
57 ～ 62 時間目	仕上工事 (タイル工事・石工事)		
63 ～ 66 時間目	仕上工事 (建具工事・ガラス工事)		
67 ～ 70 時間目	仕上工事 (内装工事)		
71 ～ 73 時間目	仕上工事 (塗装工事)		
74 ～ 75 時間目	仕上工事 (断熱工事)		
76 ～ 76 時間目	建物の引渡し		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	建築施工テキスト	出版社：井上書院
	教材		著者：兼歳昌直
備考	⑤については、45分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、1単位に満たない場合は小数点第2位以下を切り捨てる。		科目コード 110801

授 業 計 画 (シラバス)

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築法規		
② 対象学科	工業専門課程 建築工学科 (夜間部)	③ 履修学年	1
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	76
⑦ 担当教員(代表)	青山 好之	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>わが国における建築活動は、すべて法律を規範として営まれており、建築基準法は、構造・防火・避難・衛生等に関する技術的基準及び集団としての秩序を維持するための用途・密度・形態等に関する基準を規定するとともに、これらの内容を担保するための制度・手続き等についても規定している。この授業は建築基準法を中心に学ぶことにより建築関連業務に従事する者に必要な法律知識の習得と社会の変化に対応できる人材の養成を目標とする。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>建築基準法を理解する上で重要な用語の定義について図解等を交えてわかりやすく解説する。また、建築基準法及び建築基準法施行令を基本として、建築物自体の主要な技術基準、都市計画区域等における主要な建築制限、制度規定について、法の基因関係から逐条の解説を実際例と併せて解説すると共に法文内容の理解を深めるために演習を行う。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 4 時間目	建築法規の概要・建築基準法の概要、用語の定義		
5 ～ 8 時間目	建築に関する用語の定義		
9 ～ 12 時間目	面積、高さ等の算定		
13 ～ 16 時間目	建築基準法に関わる手続き		
17 ～ 20 時間目	居室の採光		
21 ～ 24 時間目	居室の換気、アスベスト規制、シックハウス		
25 ～ 28 時間目	居室の天井高・床高・階段の寸法等		
29 ～ 32 時間目	道路関係		
33 ～ 36 時間目	用途地域		
37 ～ 40 時間目	容積率		
41 ～ 44 時間目	建ぺい率		
45 ～ 48 時間目	高さ制限・日影規制		
49 ～ 52 時間目	防火・準防火地域の制限		
53 ～ 56 時間目	防火壁等・耐火・準耐火建築物		
57 ～ 60 時間目	内装制限		
61 ～ 64 時間目	防火区画		
65 ～ 68 時間目	避難施設		
69 ～ 72 時間目	構造強度		
73 ～ 76 時間目	建築基準法以外の建築関係規定		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	建築関係法令集 法令編	出版社：総合資格
	教材		著者：総合資格学院
備考	⑤については、45分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、1単位に満たない場合は小数点第2位以下を切り捨てる。		科目コード
			110901

授業計画（シラバス）

【2022年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	施工管理		
② 対象学科	工業専門課程 建築工学科（夜間部）	③ 履修学年	2
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	84
⑦ 担当教員(代表)	稲生 哲雄	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。		
⑩ 授業の目的・目標			
<p>施工管理に必要な建築学の知識と、建築実務上重要な施工計画・工程管理・品質管理・安全管理の諸事項を習得させる。実務に就いた際に現場施工監督者（管理者）としての必要な知識を備える。</p>			
⑪ 授業の概要			
<p>現場施工の工事完了までの諸事項を、安全管理・工程管理・品質管理面について検討し、実務設計図面を使用してスムーズに工事が進行するように具体的な施工計画書を作成する。</p>			
⑫ 授業内容・授業計画			
1 ～ 5 時間目	建築学（計画原論）		
6 ～ 11 時間目	建築学（構造力学）		
12 ～ 17 時間目	建築学（一般構造）		
18 ～ 23 時間目	建築学（建築材料）		
24 ～ 29 時間目	建築学（施工：躯体）		
30 ～ 35 時間目	建築学（施工：仕上げ）		
36 ～ 42 時間目	建築学（設備・積算・外構）		
43 ～ 48 時間目	施工計画		
49 ～ 54 時間目	工程管理		
55 ～ 60 時間目	品質管理		
61 ～ 68 時間目	安全管理		
69 ～ 76 時間目	建築基準法		
77 ～ 82 時間目	建築基準法施行令		
83 ～ 84 時間目	建設業法		
～ 時間目			
⑬ その他	教科書	建築施工テキスト	出版社：井上書院
	教材	配布資料	著者：兼歳昌直
備考	⑤については、45分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、1単位に満たない場合は小数点第2位以下を切り捨てる。		科目コード 111003

